

平成 30 年 6 月 28 日

各位

会社名 株式会社 新生銀行
代表者名 代表取締役社長 工藤 英之
(コード番号 : 8303 東証第一部)

男性社員のお小遣いは過去 3 年続いた 37,000 円台から 39,836 円に上昇
-「2018 年サラリーマンのお小遣い調査」結果について
～男性社員のお小遣い額は前年比 2,408 円の増加、昼食代は前年比 20 円減の 570 円～

当行は、20 代から 50 代の有職者の男女約 2,700 名を対象にした「2018 年サラリーマンのお小遣い調査」を実施し、その結果を取りまとめました。

「2018 年サラリーマンのお小遣い調査」結果の主なポイント

- 男性社員のお小遣い額は 39,836 円(前年比 2,408 円の増加)。2015 年から 37,000 円台が 3 年連続で続いていたが、2014 年の 39,572 円とほぼ同水準に回復。
- 女性社員のお小遣い額は、前年比 903 円増加し、34,854 円。
- 男性社員の昼食代は前年比 20 円減少の 570 円。
- 男性社員の 1 ヶ月の飲み代は前年比 531 円増加の 12,506 円。
- 男性社員の 37.8%が職場で働き方改革があったと回答(2017 年は 32.7%)。「残業が減った」(56.0%)、「有休が取りやすくなった」(35.5%)、「定時で帰宅できる日数が増えた」(27.7%)が主な内容。約半数(46.9%)が支出が増えたと回答。

■ **お小遣い額は 2014 年の水準に回復**

男性社員の毎月のお小遣い額は前年比 2,408 円増加の 39,836 円となりました。特に 20 代では、昨年より 6,641 円上昇の 42,018 円となり、働き方改革による余暇の増加で飲み代の支出が増えたこと、1 ヶ月の飲み代が増加したことなどを背景に 20 代の平均お小遣い額が大幅に増加したことが、全体の増加につながったと考えられます。

女性社員のお小遣い額は前年比 903 円増加し、34,854 円となりました。

■ **昼食代は前年より 20 円減少の 570 円**

男性社員の 1 日の平均昼食代は、前年比 20 円減少の 570 円となりましたが、マクロ的な視点では直近 3 年間で大きな変化はないと捉えられます。年代別では、20 代と 50 代が前年比減少しています。

女性社員の昼食代は前年比 5 円微増の 586 円となりました。

■ **男性社員の 1 ヶ月の飲み代は前年比 531 円増加の 12,506 円**

男性社員で「お酒を飲まない人」は 20.7%と 5 人に 1 人は飲酒しない状況ですが、昨年と比べて飲酒している男性社員の割合は増加しました。男性社員の 1 回の飲み代は 5,410 円、1 回の飲み代と 1 ヶ月の平均飲み回数から算出した 1 ヶ月の飲み代は前年比 531 円増加の 12,506 円となりました。

女性社員の 1 回の飲み代は 4,351 円、1 ヶ月の飲み代は前年比 365 円減少の 9,485 円となりました。

■ **男性社員の 37.8%が職場で働き方改革があったと回答**

職場で働き方改革があったと回答した男性社員について、「残業が減った」(56.0%)、「有休が取りやすくなった」(35.5%)、「定時で帰宅できる日数が増えた」(27.7%)がその主な内容でした。また、働き方改革により約半数(46.9%)が「支出が増えたものがある」と回答し、20 代男性社員は 62.7%と支出の増加が顕著でした。

女性社員についても、約 3 人に 1 人(31.1%)が働き方改革があったと回答しています。

本調査の詳しい調査結果については、別添「2018 年サラリーマンのお小遣い調査詳細レポート」をご参照ください。

以上

別添

2018年
サラリーマンのお小遣い調査
詳細レポート

2018年 サラリーマンのお小遣い調査概要

男性会社員のお小遣い額は 過去3年連続の37,000円台から39,836円に上昇 ランチ代は570円と前年より20円減少

- 緩やかな景気回復が継続している中で、男性会社員の平均お小遣い額は39,836円と、前年より2,408円増加となった（前年の37,428円は過去2番目に低いお小遣い額）。2015年から37,000円台が3年連続で続いていたが、2014年の39,572円とほぼ同水準まで増加。20代の個人年収の増加や、働き方改革による余暇の増加で飲み代の支出が増えたことなどを背景に20代のお小遣い額が大きく増加したことが、全体の平均お小遣い額の増加につながったと考えられる。30代・40代はやや増加で3万円台後半、50代は前年比とほぼ同水準の44,017円と最も高いお小遣い額となる。
- 男性会社員の1日の昼食代は前年比20円減の570円。
- 男性会社員の1回あたりの飲み代は5,410円と、自宅で飲む方の2,679円より2,700円以上高い結果に。
- 女性会社員の平均お小遣い額は、前年比903円増加し、34,854円。20代は前年比297円減少の41,826円となるが、男性会社員20代とほぼ同水準。また、女性会社員の昼食代は前年と同水準の586円。1回あたりの飲み代は4,351円と、自宅で飲む方の2,019円より、2,300円以上金額にひらきがある。
- 男性会社員の37.8%が職場で働き方改革があったと回答（2017年は32.7%）。「残業が減った」（56.0%）、「有休が取りやすくなった」（35.5%）、「定時に帰宅できる日数が増えた」（27.7%）が主な内容。働き方改革により約半数（46.9%）が「支出が増えたものがある」と回答。支出が増えた主なものとして、「食費（飲み代除く）」（33.8%）と「飲み代」（31.5%）があがる。
- 消費税率8%の負担を感じる人は、前年より微増し、男性会社員で73.1%（2017年は71.9%）、女性会社員で80.4%（2017年は80.0%）。消費税率8%への引き上げから4年が経過するが、依然として負担を感じている層が多い。
- 今後、消費税率が10%に引き上げられた場合に負担を感じる人は、男性会社員で83.9%、女性会社員で93.6%。消費税率8%の場合と比較して、男女ともに負担感が10%以上高くなる結果に。

<2018年調査結果について>

■2017年度の景況

日経平均株価は2017年度初頭は北朝鮮情勢の緊迫化によるリスクが不安要素となり、2万円前後を推移していましたが、9月半ばから上昇し、11月にはバブル崩壊後の戻り高値を約26年(25年10ヶ月)ぶりに更新し、2万3,000円を超えました。企業業績の順調な伸びを受け、2017年度後半も堅調に株価が上昇し、2018年3月末の終値は2万1,454円30銭(2016年度末との比較では2,545円4銭上昇)となりました。

内閣府が公表した2018年3月の景気動向指数では、景気の現状を「改善している」とし、2012年12月に始まった「アベノミクス景気」が58ヶ月継続(2017年9月時点)し、戦後2番目に長い「いざなぎ景気」を超えました。

賃金面においては、厚生労働省が発表した2017年度の毎月勤労統計調査によると、物価変動を除いた2017年度の実質賃金指数は前年度比で0.2%下回り、2年ぶりに低下しました。名目賃金は(年率)0.7%上昇しましたが、物価はそれ以上に上昇し、賃金の伸びが追いついていない状況です。同じく厚生労働省が発表した「平成29年 賃金構造基本統計調査」によると、一般労働者の月額賃金は男性33万5,500円(前年比0.1%増)、女性24万6,100円(同0.6%増)となり、女性の賃金は過去最高となりました。

■2018年度の見通し

当行は、2018年度も引き続き景気拡大は継続し、労働市場の逼迫化が消費・設備投資の拡大に結びつくことで同年度の実質GDPが1.3%となることを見込んでいます(2017年度1.6%)^(注)。また2018年度の賃金の見通しとしては、2018年春闘の中間集計結果によると(2018年5月10日時点)、基本給を底上げするベースアップ(ベア)実施額は、2,220組合の賃上げ額平均で1,614円となり(引き上げ率は0.53%)、前年同時期の実施額と率(賃上げ額1,332円、引き上げ率0.46%)と微増し、5年連続で賃金が引き上げられた結果となりました。このことから引き続き2018年度もサラリーマンの賃金自体は緩やかな上昇が見込めるものと考えられます。

■2018年サラリーマンのお小遣い調査

2017年度の「サラリーマンのお小遣い調査」では、男性会社員のお小遣いが前年の37,428円から2,408円増加して39,836円となり、2015年から3年連続の37,000円台から、2014年と同水準まで増加しました。男性会社員のお小遣いを年代別にみると、50代が最も高く44,017円、次いで20代で42,018円となりともに4万円を超えていますが、30代と40代は3万円台後半と世代間で差が出る結果となりました。また女性会社員のお小遣い額は、昨年より903円上昇し、34,854円となり、男性会社員と同様に上昇傾向にあります。

ライフステージ別では、未婚の男性会社員のお小遣いが最も高く4万円台後半となっています。一方で、子どもあり世帯で中高生以下がいる世帯(未就学児、小学生、中学生、高校生のいる世帯)では2万円台半ばから3万円台半ばとなり、子育て・教育費の家計への負担が重い世帯において、お小遣い額が低い結果となっています。

消費税率8%の負担感も昨年とほぼ同水準で、男性・女性会社員ともに7割以上が負担を感じている(「大変負担を感じている」と「少し負担を感じている」の合計)」と回答し、消費税率10%となった場合の負担感は男性・女性会社員ともに8割以上とさらに高く、依然として厳しいお財布事情が明らかになる結果となりました。

「働き方改革」が家計の支出に与える影響については、男性会社員の37.8%が「職場で働き方改革があった」と回答し、実際に働き方改革によって支出が増えたものがある男性会社員は46.9%と、半数近くが支出増となりました。男性会社員20代ではその割合が62.7%、女性会社員20代では47.2%となり、働き方改革による支出増を牽引しているのは、昨年と同様に男女とも20代という若年層であることが明らかになりました。

(注) 新生銀行 金融調査室 「日本経済見通し(2018年6月版、第10号)」(2018年6月18日)

＜調査設計＞

- **調査時期** 2018年4月12日～4月16日の5日間
- **調査方法** インターネットによる調査(専門の調査会社に依頼し、全国からサンプルを収集)
- **調査エリア** 全国
- **調査対象者** 会社員(正社員・契約社員・派遣社員)、パート・アルバイト
- **サンプル数** 合計2,713名
 会社員 男性:1,252名、女性:791名
 パート・アルバイト 男性:412名、女性:258名
- **サンプル内訳**

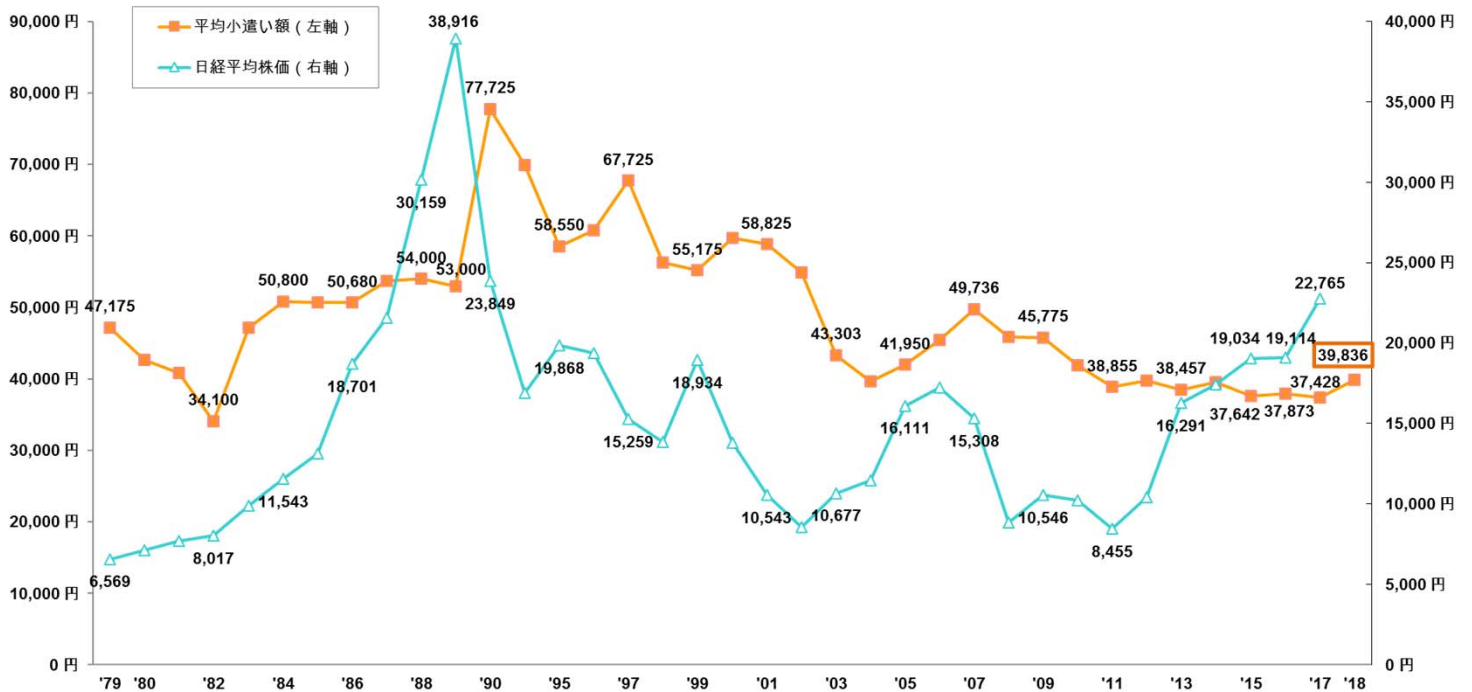
	男性 会社員		女性 会社員		男性 パート・アルバイト		女性 パート・アルバイト	
	N	%	N	%	N	%	N	%
20代	313	25%	197	25%	103	25%	65	25%
30代	313	25%	198	25%	103	25%	64	25%
40代	313	25%	198	25%	103	25%	64	25%
50代	313	25%	198	25%	103	25%	65	25%
総計	1,252	100%	791	100%	412	100%	258	100%

※会社員、女性パート・アルバイトは、年代均等にて割付回収しています。
 ※男性パート・アルバイトは年代均等になるよう、集計時に補正をしています。
 (本レポートは、補正後のスコアを掲載しています)

＜目次＞

【1】 サラリーマンのお小遣い.....	6
【2】 サラリーマンの昼食事情.....	13
【3】 サラリーマンの飲み事情.....	17
【4】働き方改革によるお小遣いの使い方・やりくりの変化.....	21
【5】 消費税の負担感、経済的なゆとり.....	29
【6】 お小遣いの使いみち、やりくり術.....	34
【7】 サラリーマンの給与管理状況.....	39
【8】 パート・アルバイトの基本データ.....	41

日経平均株価とサラリーマンの平均お小遣い額の推移 (1979年～2018年)



- 1978年以前と、1991年および1993年、1994年については調査を実施していません。
- グラフ中の日経平均株価は、年次データの終値を表記しています。

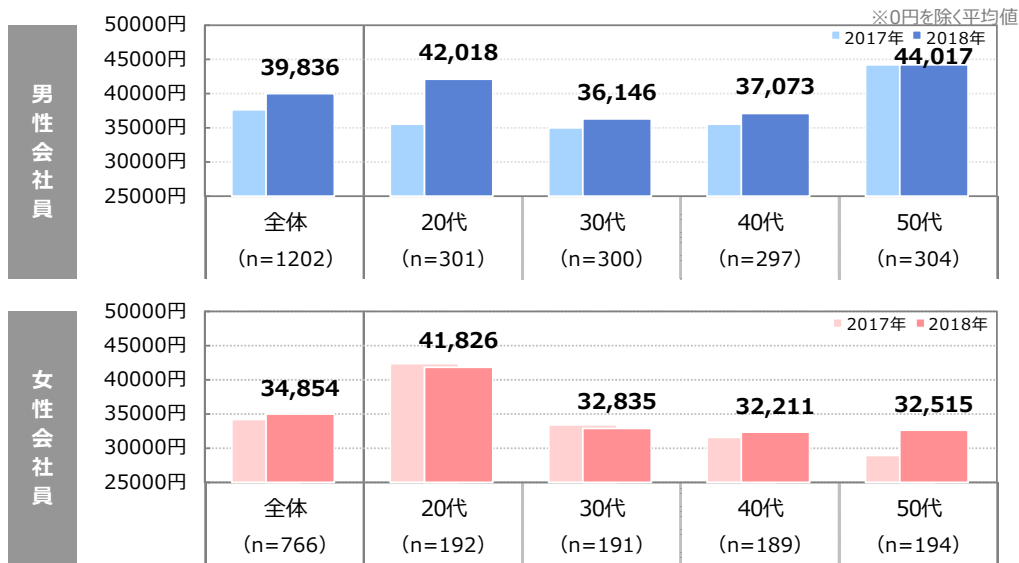
【1】サラリーマンのお小遣い

- 男性社員の月額平均お小遣い額は39,836円と前年比2,408円増加した
(2015年から37,000円台が続いていたが、2014年の39,572円と同水準になる)
- 20代から40代は昨年より増加し、特に20代で6,641円増加し、4万円を超える水準に
- 30代が36,146円と最も低く、50代とは8000円近く差がある
- ライフステージ別では、未婚者は48,954円と、既婚者と比較して13,000円以上の差がある
- 女性社員は2年連続で緩やかに増加し、34,854円。男性社員より4,982円低い

■ 月の平均お小遣い額

男性社員の月の平均お小遣い額は、昨年の37,428円から2,408円増の39,836円となりました。年代別にみると、50代では昨年と同水準であるものの、20代から40代は昨年より増加しております。特に20代では、昨年より6,641円上昇の42,018円となり、全体の額の増加につながったと考えられます。20代のお小遣い額の増加の背景には、個人年収の増加、働き方改革の影響による余暇時の飲み代支出の増加、および1ヶ月あたりの飲み代が昨年より4,000円近く増加したことなどが考えられます。女性社員については、お小遣い額は昨年の33,951円から903円上昇し、34,854円となりました。年代別にみると、50代で3,682円と大幅に増加している点が特徴的です。

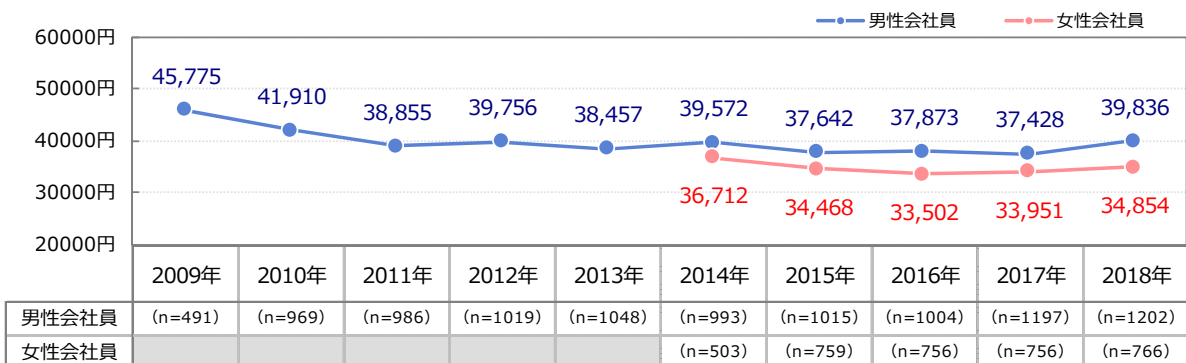
設問：あなたの一か月の“おこづかい”はいくらですか？（昼食代含む）



男性社員における近年のお小遣い額の推移は、2015年から37,000円台が続いておりましたが、2018年は39,836円と、2014年の39,572円と同水準まで増加しました。

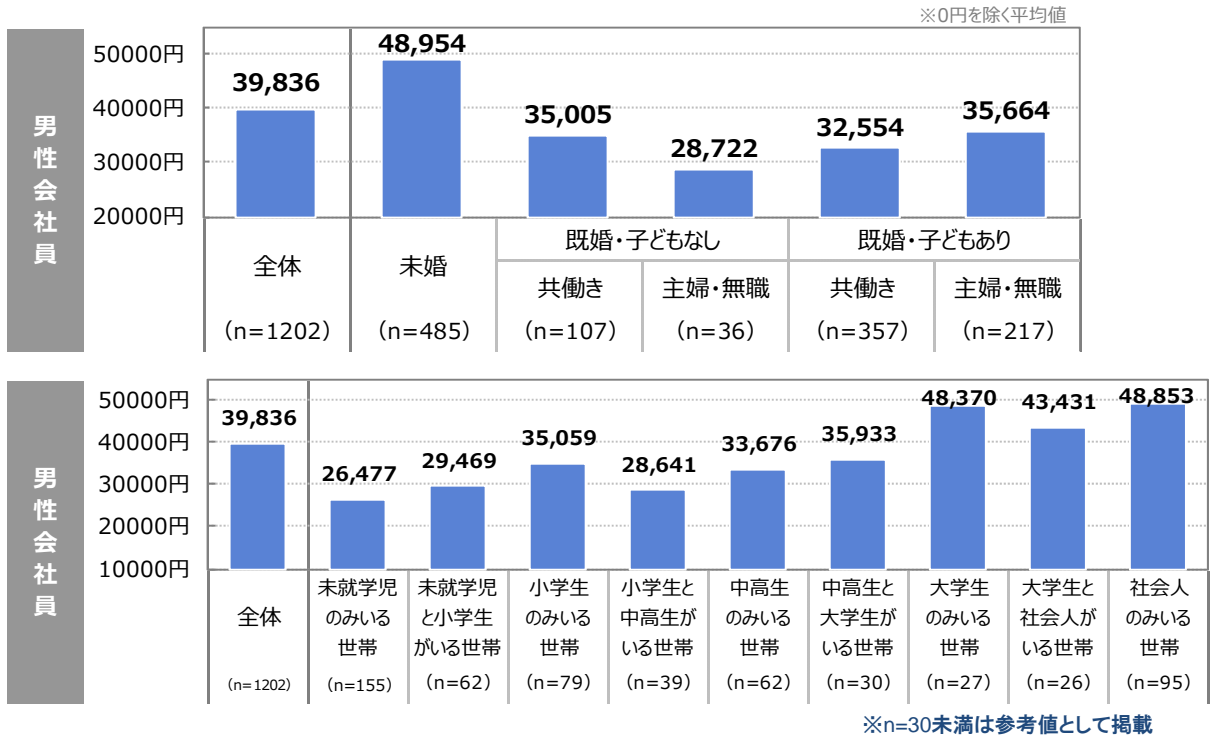
女性社員は、2016年から2年連続で緩やかな増加傾向がみられます。

■ 平均お小遣い額の時系列推移 (2009年～2018年)



男性会社員の平均お小遣い額をライフステージ別にみると、未婚者では4万台後半になっています。一方、既婚者は2万円台後半から3万円台半ばと、1万円以上の開きがみられます。

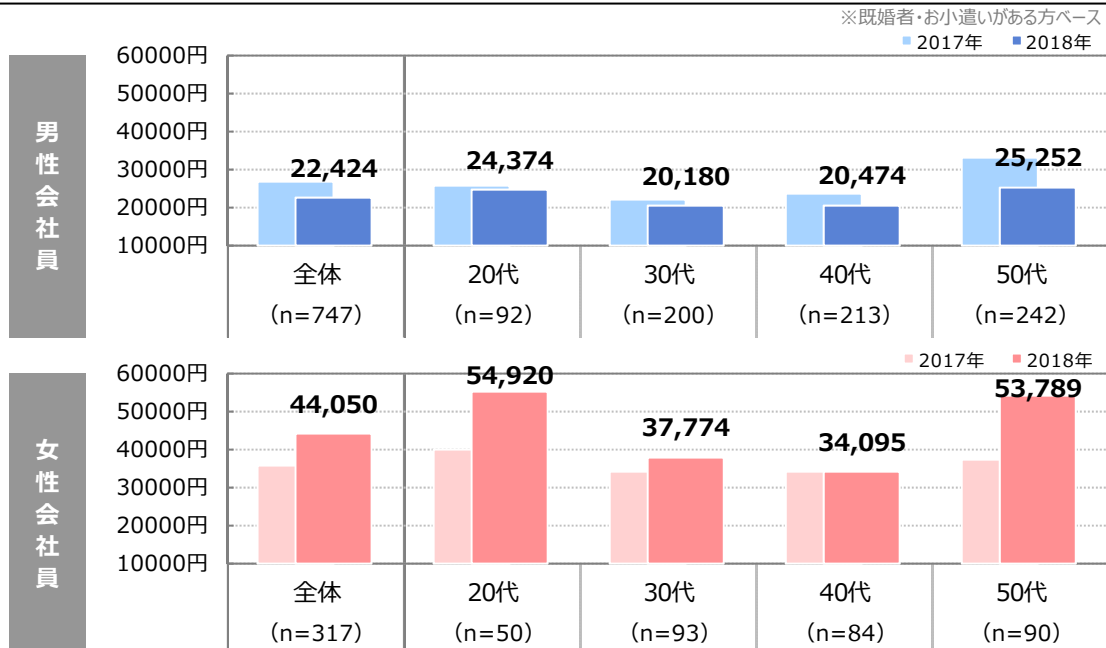
また、子どもの学齢別にみると、中高生以下がいない世帯がいずれも4万円を超えている一方、中高生以下がいる世帯ではいずれも4万円を下回っており、子育て・教育費の家計への負担が読み取れる結果となりました。



■ 配偶者のお小遣い額

男性会社員の配偶者のお小遣い額は、昨年より4,083円減少し、22,424円となっています。年代別では、40代で3,157円の減少、50代で7,657円の減少の傾向がみられます。一方、女性会社員の配偶者のお小遣い額は、8,350円増加し、44,050円となっており、前頁の男性会社員のお小遣い額と比べて4,214円高い結果となっています。また、年代別にみると、20代、50代で昨年より大幅に増加している傾向がみられます。

設問：配偶者の一ヶ月の“おこづかい”はいくらですか？(昼食代含む)

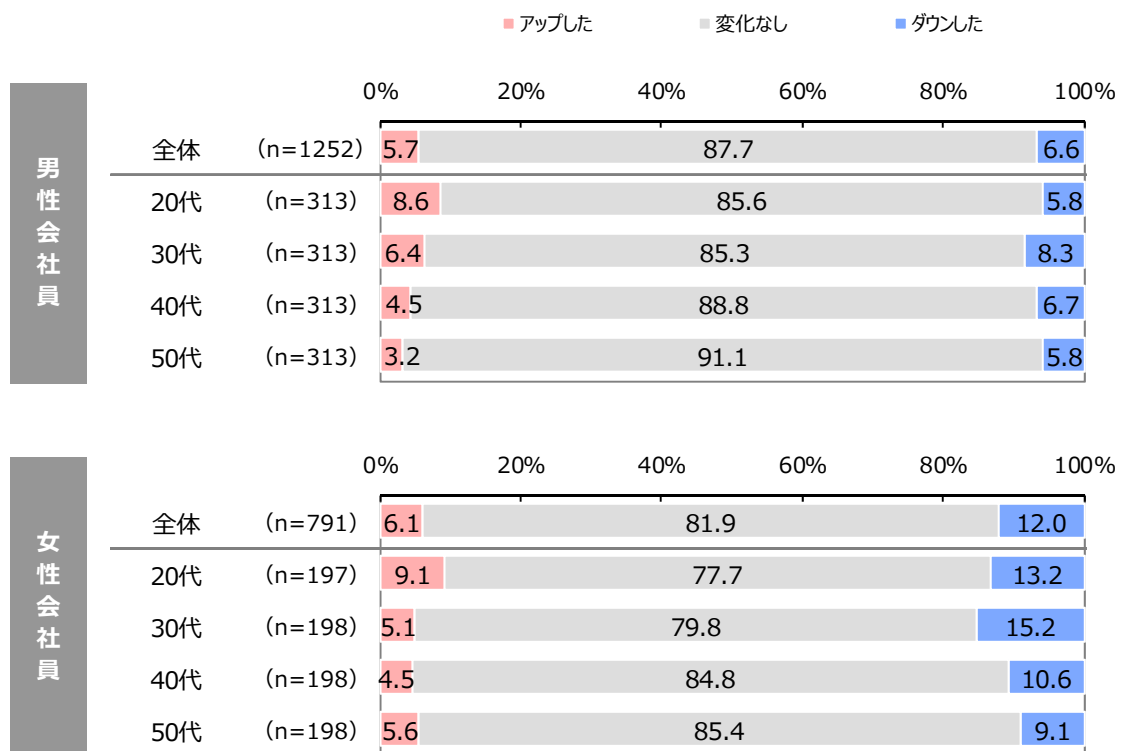


■ お小遣い額の変化

男性会社員では、この1年でお小遣い額に変化があった方は限定的で、多くの方が「変化なし」という結果でした。変化があった方では、「アップした」が5.7%、「ダウンした」が6.6%と、減額された方の割合がやや高くなっています。年代別にみると、若年の方ほど「アップした」の割合が高まり、20代では8.6%に達しています。一方、「ダウンした」の割合は、30代で高いものの、30代以外では同水準となっています。

女性会社員についても、多くの方が「変化なし」という結果は、男性会社員と同様です。また、「アップした」の割合が若年の方ほど高い点や、「ダウンした」の割合が30代で高い点も男性会社員と同様です。一方で、女性会社員の「ダウンした」の割合は、男性会社員と比較していずれの年代も高くなっています。

設問：この一年(2017年4月～2018年3月)の間に、あなたの“おこづかい”はどのように変化しましたか？

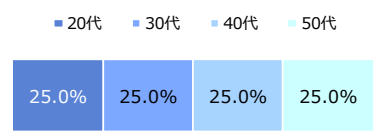
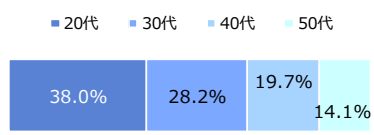
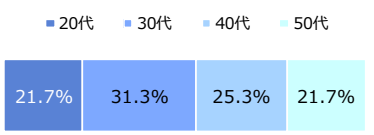
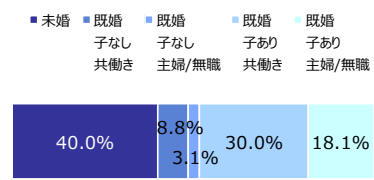
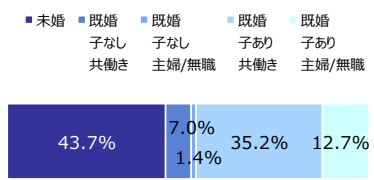
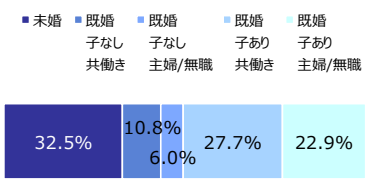
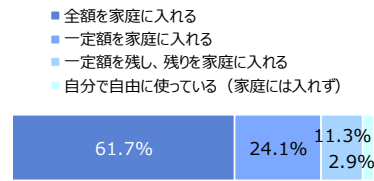
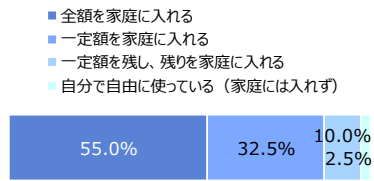
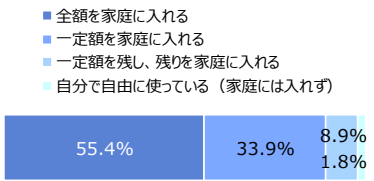


■ お小遣いに変化があった方のプロフィール

男性会社員のこの1年でお小遣いがアップした方(5.7%)とダウンした方(6.6%)のプロフィールを、男性会社員全体と比較したものが以下となります。ここから、お小遣いに変化があった方がどのような方なのかを確認します。

まず、お小遣いがアップした方は、年齢は20代が38.0%を占め、若年層寄りの傾向がみられます。家族構成では未婚者が43.7%、既婚・子あり・共働き層が35.2%を占め、年収では、個人年収・世帯年収ともに全体より高く、特に世帯年収は全体と104万円の開きがあります。

一方、お小遣いがダウンした方は、年齢は30代が多く、既婚者が多い特徴がみられます。

	男性会社員 全体 (n=1252)	お小遣いがアップした方 (n=71)	お小遣いがダウンした方 (n=83)
年齢			
年収	個人年収 534 万円 世帯年収 669 万円	個人年収 575 万円 世帯年収 773 万円	個人年収 528 万円 世帯年収 663 万円
家族構成			
給与管理状況 ※既婚者ベース			

※右下にn数が記載されていないグラフは、各カテゴリの1番上に記載している総n数が該当します。

女性社員では、この1年でお小遣いがアップした方は6.1%、ダウンした方は12.0%という結果になりました(P8参照)。

女性社員全体と比較して、プロフィールの特徴をみると、お小遣いがアップした方は、年齢は20代が37.5%を占め、男性社員同様、若年層寄りの傾向がみられます。年収も個人年収・世帯年収ともに高く、特に世帯年収で全体と141万円の開きがあります。また、給与管理状況は、自分で自由に使っている方が多くなっています。

一方、お小遣いがダウンした方は、年齢は30代が多く、世帯年収は全体より76万円低くなっています。また、家族構成は既婚子ありの方が全体よりも多い点の特徴です。

	女性社員 全体 (n=791)	お小遣いがアップした方 (n=48)	お小遣いがダウンした方 (n=95)
年齢	<ul style="list-style-type: none"> 20代 24.9% 30代 25.0% 40代 25.0% 50代 25.0% 	<ul style="list-style-type: none"> 20代 37.5% 30代 20.8% 40代 18.8% 50代 22.9% 	<ul style="list-style-type: none"> 20代 27.4% 30代 31.6% 40代 22.1% 50代 18.9%
年収	個人年収 320 万円 世帯年収 597 万円	個人年収 353 万円 世帯年収 738 万円	個人年収 283 万円 世帯年収 521 万円
家族構成	<ul style="list-style-type: none"> 未婚 59.9% 既婚子なし 12.8% 既婚子あり 27.3% 	<ul style="list-style-type: none"> 未婚 66.7% 既婚子なし 10.4% 既婚子あり 22.9% 	<ul style="list-style-type: none"> 未婚 52.6% 既婚子なし 15.8% 既婚子あり 31.6%
給与管理状況 ※既婚者ベース	<ul style="list-style-type: none"> 全額を家庭に入れる 37.2% 一定額を家庭に入れる 35.3% 一定額を残し、残りを家庭に入れる 17.4% 自分で自由に使っている (家庭には入れず) 10.1% (n=317)	<ul style="list-style-type: none"> 全額を家庭に入れる 31.3% 一定額を家庭に入れる 31.3% 一定額を残し、残りを家庭に入れる 12.5% 自分で自由に使っている (家庭には入れず) 25.0% (n=16)	<ul style="list-style-type: none"> 全額を家庭に入れる 35.6% 一定額を家庭に入れる 35.6% 一定額を残し、残りを家庭に入れる 24.4% 自分で自由に使っている (家庭には入れず) 4.4% (n=45)

※右下にn数が記載されていないグラフは、各カテゴリの1番上に記載している総n数が該当します。

※n=30未満は参考値として掲載

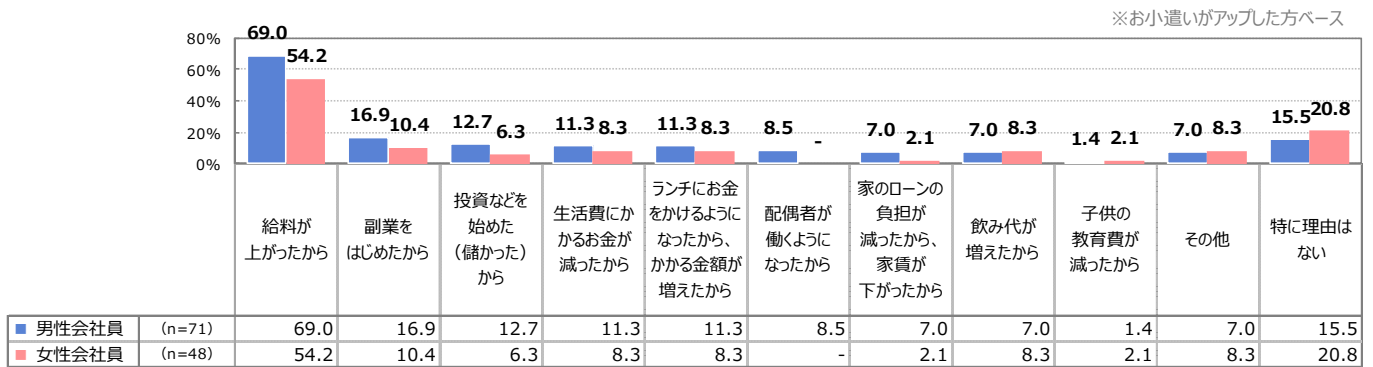
■ お小遣い額がアップした理由・ダウンした理由

この1年でお小遣いがアップした方(男性会社員:5.7%、女性会社員6.1%)の理由が以下となります(P8参照)。

男性会社員におけるお小遣いがアップした理由は、「給料が上がったから」が69.0%で最も高く、「副業をはじめたから」16.9%、「投資などを始めた(儲かった)から」12.7%が続く結果となりました。

女性会社員の理由も、男性会社員同様の理由が上位TOP3に挙げられます。

設問：おこづかいがアップした要因としてあてはまるものをすべてお選び下さい。

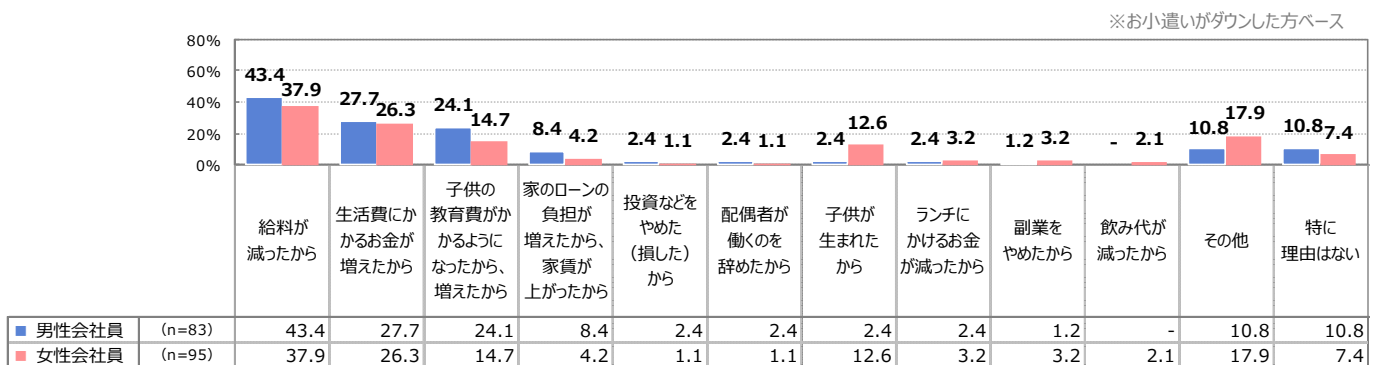


また、この1年でお小遣いがダウンした方(男性会社員:6.6%、女性会社員12.0%)の理由が以下となります(P8参照)。

男性会社員におけるお小遣いがダウンした理由は、「給料が減ったから」が43.4%で最も高く、「生活費にかかるお金が増えたから」27.7%、「子供の教育費がかかるようになったから、増えたから」24.1%が続く結果となりました。

また、女性会社員の理由は、男性会社員同様、「給料が減ったから」が37.9%で最も高く、「生活費にかかるお金が増えたから」26.3%、「子供の教育費がかかるようになったから、増えたから」14.7%で続いています。また、「子供が生まれたから」が12.6%と男性会社員と比べて高くなっており、女性の方が子供が生まれることによるお小遣いへの影響が多いことが読み取れます。

設問：おこづかいがダウンした要因としてあてはまるものをすべてお選び下さい。

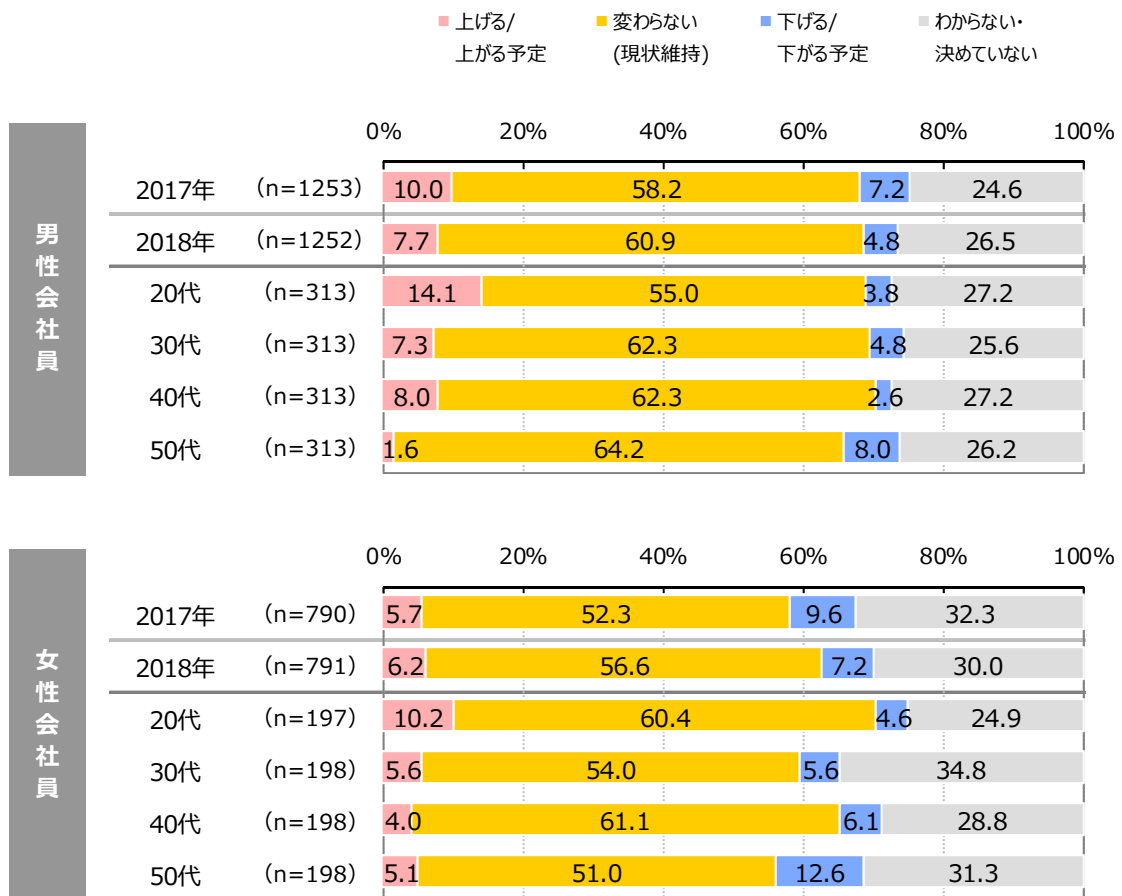


■ お小遣いアップの可能性

男性会社員における、今後のお小遣い額の予定は、「変わらない(現状維持)」が60.9%を占めます。「上げる/上がる予定」は7.7%、「下げる/下がる予定」は4.8%と、いずれも1割以下で、昨年と比較しても変動がある層は限定的です。年代別にみると、若年の方ほど「上げる/上がる予定」、年配の方ほど「下げる/下がる予定」が高い傾向にあります。

女性会社員も、男性会社員とほぼ同様の傾向で、変動のある層は限定的です。

設問：あなたの“おこづかい”は、今後アップする可能性がありますか？



【2】サラリーマンの昼食事情

- ▶ 男性会社員の昼食代は570円と昨年より20円減少、女性会社員は昨年より5円微増し586円となり、男性会社員の昼食代を若干上回る
- ▶ 男性・女性会社員ともに持参弁当の割合が最も高く、男性で3割強、女性で約半数を占める
- ▶ 昼食にかかる平均時間では、男性会社員が21.6分に対し、女性会社員は29.1分と男性よりやや長い傾向

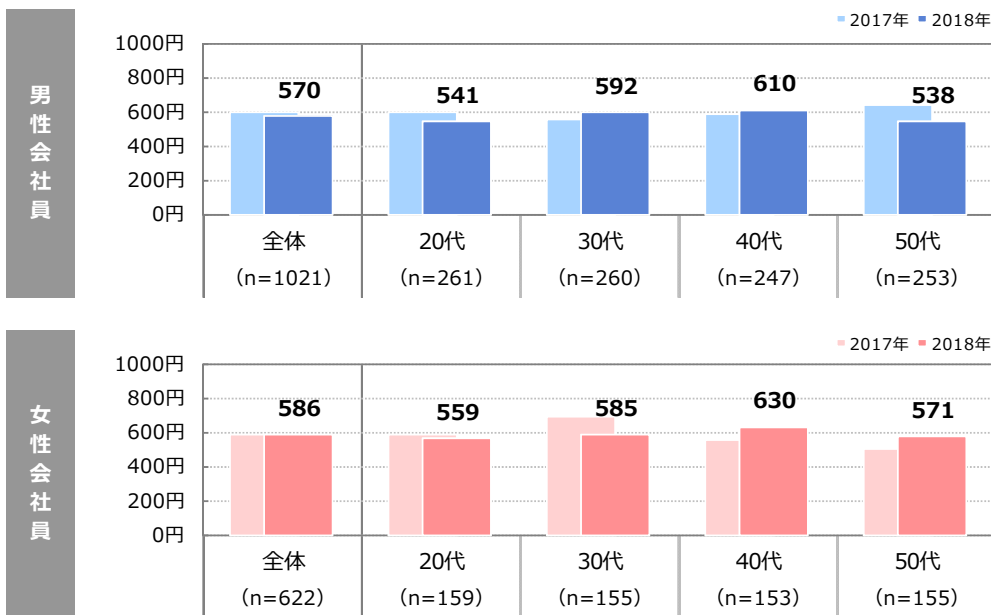
■ 一日の平均昼食代

男性会社員の一日の昼食代は、昨年の590円から20円減少し、570円となりました。年代別にみると、20代、50代で減少しています。

女性会社員の一日の昼食代は、昨年の581円から5円微増し、586円となりました。年代別にみると、20代、30代では昨年より減少している一方で、40代、50代では昨年よりも増加しています。また、男性会社員と比較して、30代以外は、男性会社員よりも高くなっています。

設問：あなたの昼食代(勤務日)は平均すると一回いくらですか？(弁当持参時を除く)

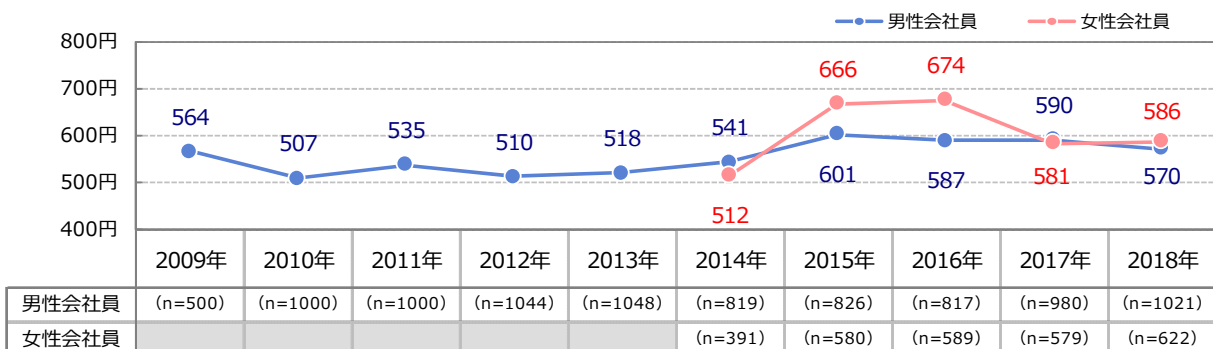
※勤務日に昼食をとる方ベース



男性会社員における直近の昼食代の傾向は、昨年より20円減少していますが、マクロ的な視点では直近3年間で大きな変化はないと捉えられます(最高額は2015年の601円)。

一方、女性会社員の平均昼食代は、昨年より5円微増しており、昨年は大きく減少していたものの、今年は大きな変化はみられませんでした。

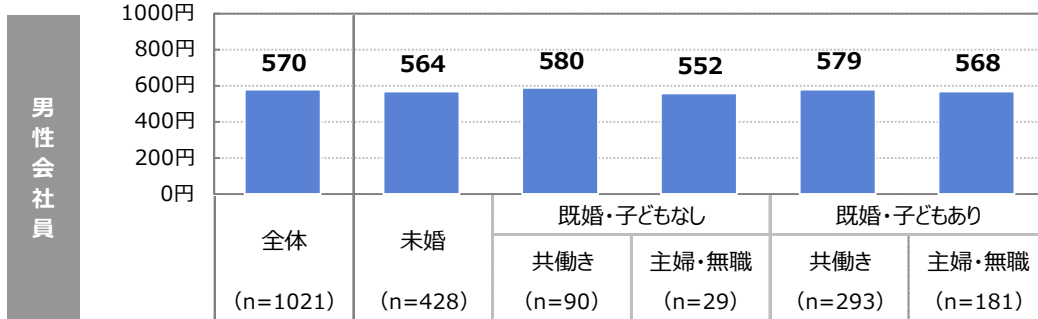
■ 平均昼食代の時系列推移(2009年～2018年)



男性会社員の一日の昼食代をライフステージ別にみると、DINKS世帯(既婚・子どもなし・共働き)が580円と最も高い金額となっています。

設問：あなたの昼食代(勤務日)は平均すると一回いくらですか？(弁当持参時を除く)

※勤務日に昼食をとる方ベース



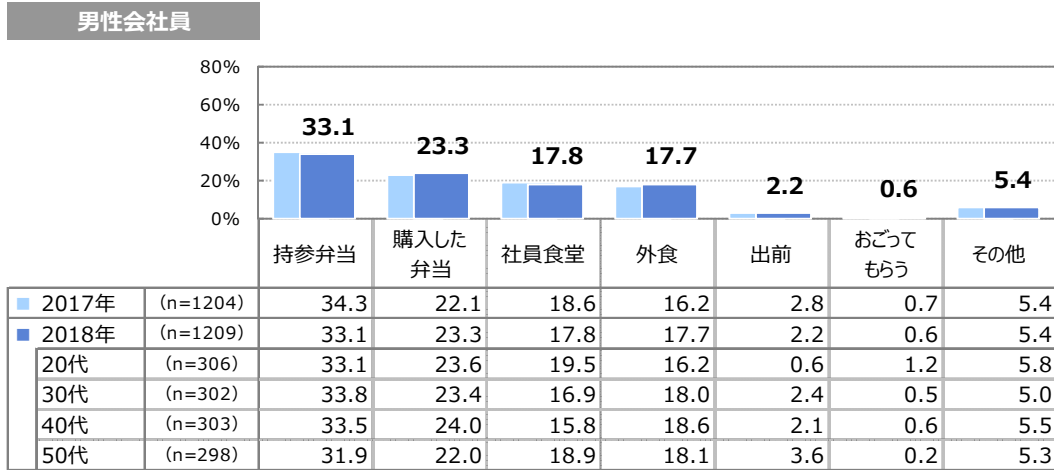
■ 昼食の内訳

男性会社員における、昼食の内訳トップ3は、「持参弁当」33.1%、「購入した弁当」23.3%、「社員食堂」17.8%の順で、昨年と比較して大きな変化はみられませんでした。

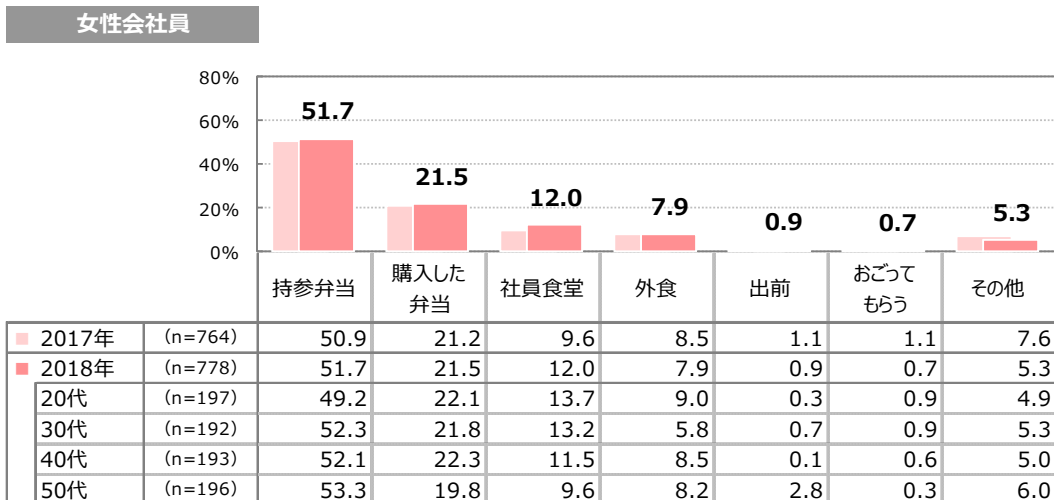
女性会社員では、男性会社員同様、「持参弁当」51.7%、「購入した弁当」21.5%、「社員食堂」12.0%の順となっています。また、「社員食堂」、「外食」が男性よりも低く、「持参弁当」が高いことから、お弁当で昼食を済ませる傾向が強いことがわかります。

設問：あなたの平均的な一週間の昼食(勤務日)のそれぞれの回数の内訳を教えてください。

※勤務日に昼食をとる方ベース



※昼食の回数の合計を100%として、それぞれの回数の割合を%で表示



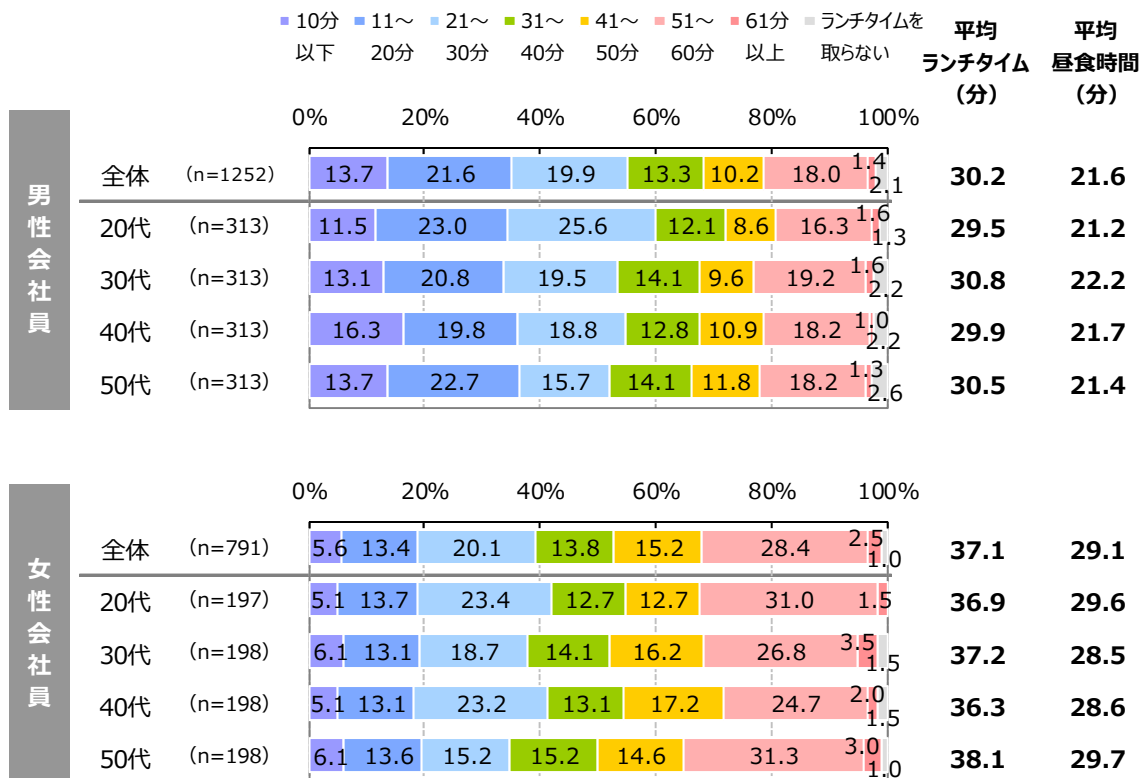
※昼食の回数の合計を100%として、それぞれの回数の割合を%で表示

■ ランチタイムにかける時間

男性社員における、ランチタイム時間は平均30.2分。そのうち、昼食時間は平均21.6分となっています。回答時間が分散していることから、個々人でランチタイム時間にばらつきがあることがわかります。なお、年代別にみると、20代で「21～30分」の割合が高い点が特徴です。

女性社員においては、「51～60分」が3割程度と多く、ランチタイム時間は平均37.1分、昼食時間は平均29.1分と、男性よりやや長い傾向がみられます。

設問：ランチタイム(昼食を含む勤務日のお昼休憩時間)にかける時間は平均して、どのくらいですか。
 昼食(勤務日)にかける時間は平均して、どのくらいですか。



■ ランチタイムの過ごし方

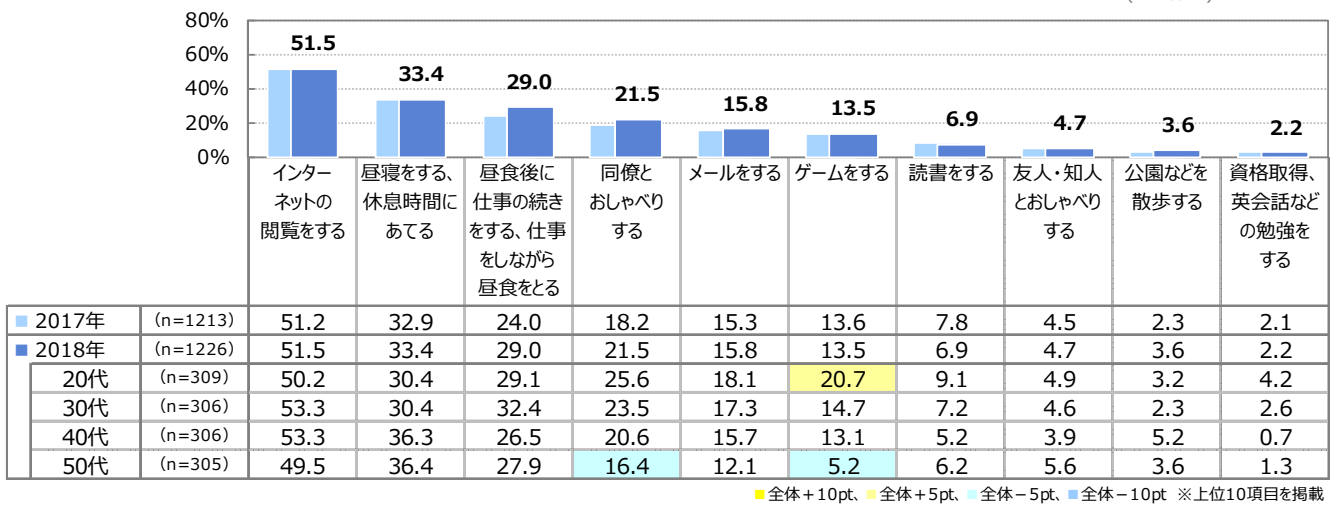
男性社員における、ランチタイムの過ごし方トップ3は、「インターネットの閲覧」51.5%、「昼寝や休息」33.4%、「仕事の続き/仕事をしながら」29.0%となっています。昨年と比較して、「仕事の続き/仕事をしながら」が5%程高くなっている点が特徴です。

女性社員においても、男性同様、「インターネットの閲覧」52.9%がトップになっています。しかし、「同僚とおしゃべり」38.1%、「メール」26.7%が続いており、男性社員と比べて誰かと会話しながら過ごす傾向にあることがわかります。また、性年代別では、20代、30代で、「インターネットの閲覧」、20代で「ゲーム」、30代で「メール」が高くなっており、若年層ほど、パソコンやスマートフォンなどを使って過ごしている割合が多いことが読み取れます。

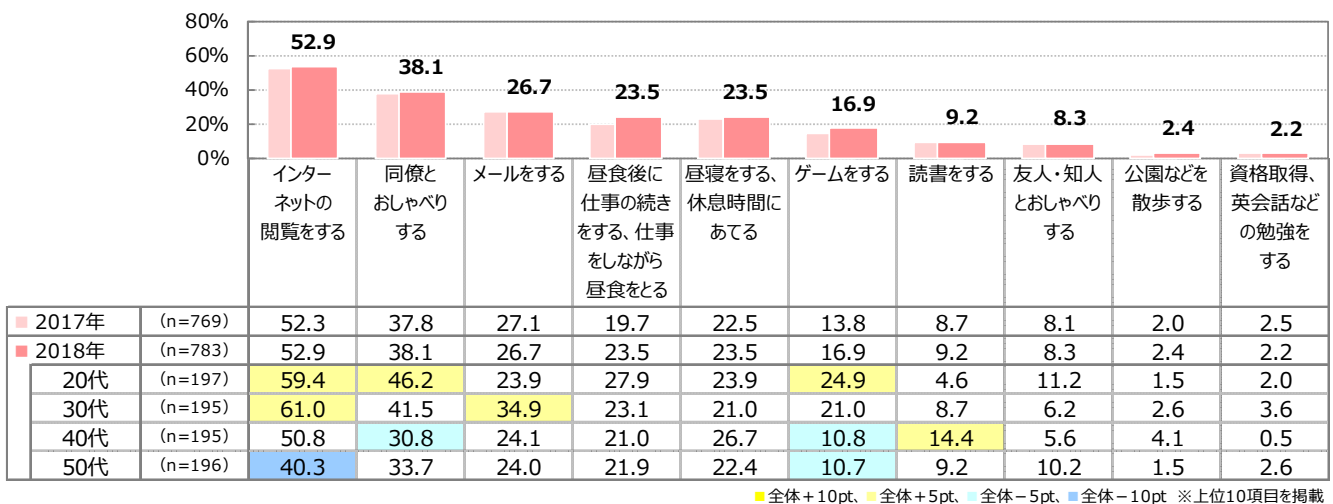
設問：あなたの「ランチタイムの過ごし方」として、あてはまるものを、全てお答えください。

男性社員

※ランチタイム(お昼休憩)をとる方ベース



女性社員



【3】サラリーマンの飲み事情

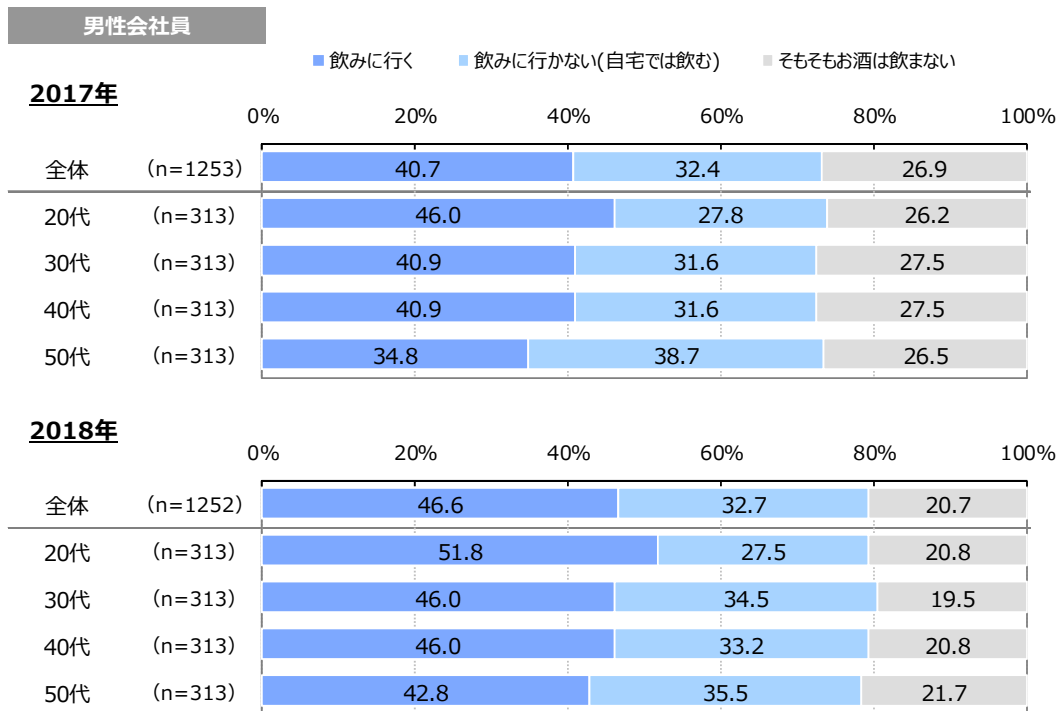
- 男性社員の仕事終わりの飲酒状況は、46.6%と約半数。「お酒を飲まない人」は20.7%と5人に1人は飲酒しない
- 男性社員の1回の飲み代は5,410円、女性社員の1回の飲み代は4,351円
- 1カ月の飲み代は、男性社員は前年より531円増え12,506円、女性社員は365円減って9,485円に(※飲み行く方ベース比較、20ページ参照)

■ 仕事後の飲酒状況と1回あたりの飲み代

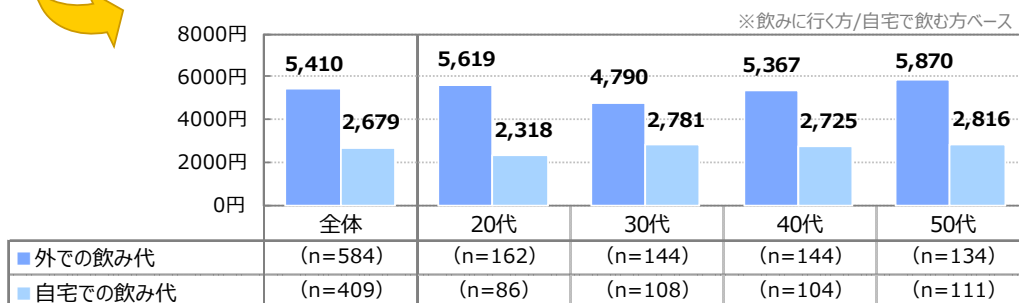
男性社員における、仕事終わりの飲酒状況は、「飲みに行く」が46.6%、外には飲みに行かないものの自宅では飲む、「飲みに行かない(自宅では飲む)」が32.7%を占めており、飲酒している方は79.3%にのぼります。昨年と比べて、飲酒している方、特に「飲みに行く」割合が増加しております。

外に飲みに行く方と自宅で飲む方の、1回あたりの飲み代を比べると、外での飲み代が2,731円高くなっています。外での飲み代は平均5,410円で、年代別にみると、50代が最も高くなっています。一方、自宅での飲み代は平均2,679円で、こちらも50代が最も高くなっています。

設問：仕事が終わった後、一カ月に平均何回くらいお酒を飲みに行きますか？
あなたの飲み代は平均すると一回いくらですか？

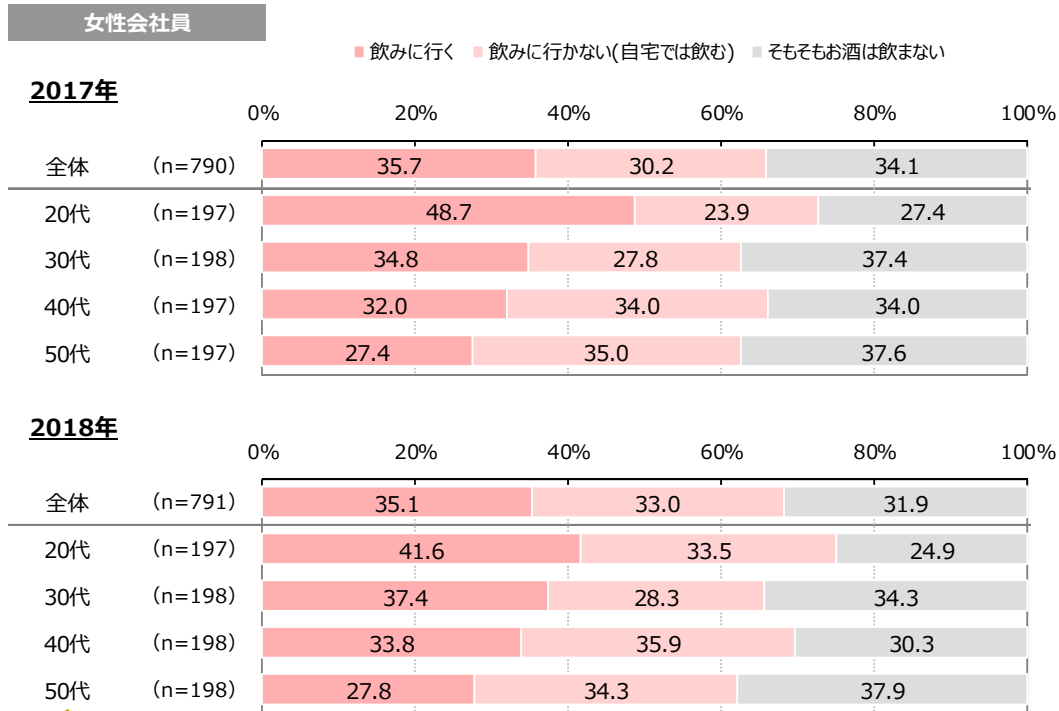


1回の平均飲み代は・・・？

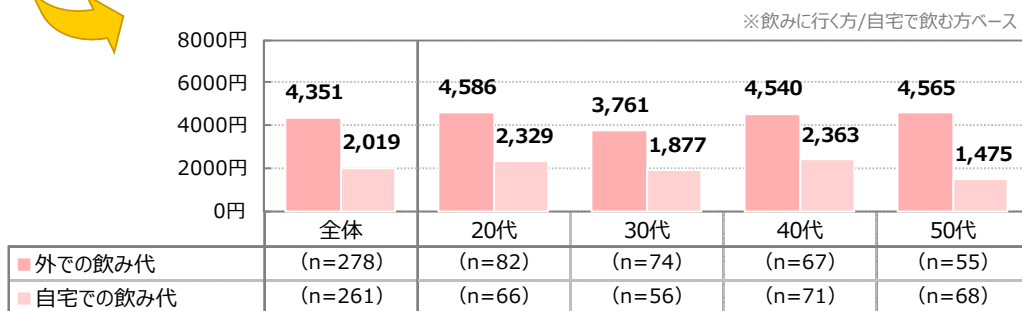


女性社員における、仕事終わりの飲酒状況は、「飲みに行く」が35.1%を、外には飲みに行かないものの自宅では飲む、「飲みに行かない(自宅では飲む)」は33.0%を占めており、飲酒している方は68.1%となっています。年代別にみると、昨年と比べて、20代から40代で自宅で飲む割合が増えています。

外に飲みに行く方と自宅で飲む方の、1回あたりの飲み代をみると、外での飲み代が平均4,351円に対し、自宅での飲み代が平均2,019円と、2,332円の開きがみられます。また、性年代別では、50代で外での飲み代が20代に次いで2番目に高いのに対し、家での飲み代は最も低くなっている点特徴的です。



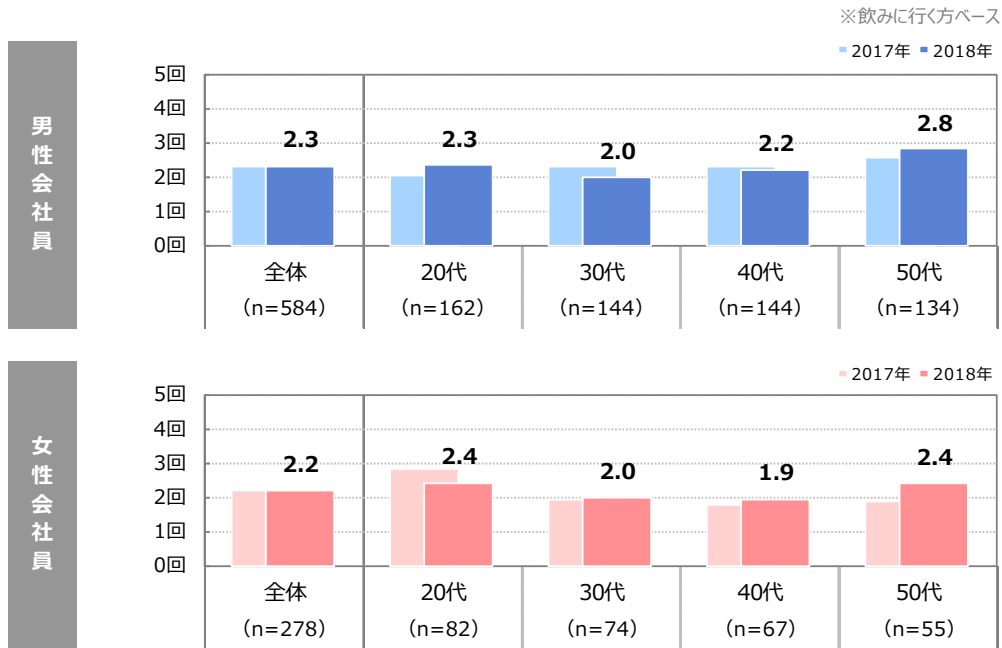
1回の平均飲み代は・・・?



■ 1カ月の飲み回数 ※飲みに行く方/自宅で飲む方ベース

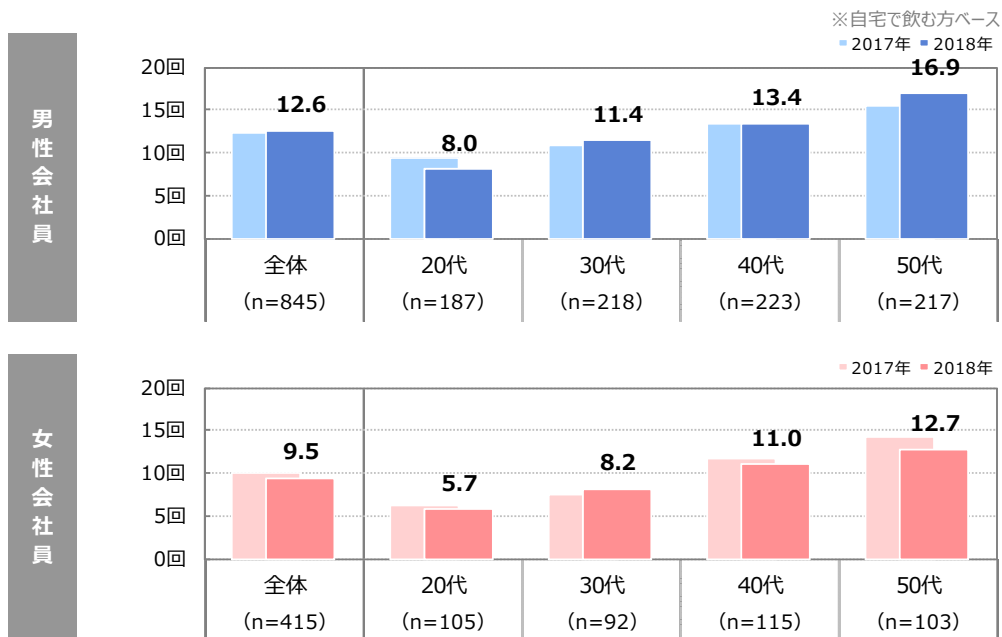
男性社員の1カ月の平均外飲み回数は、昨年と同様2.3回、女性社員も昨年と同様2.2回となりました。年代別にみると、男性社員は、50代が最も多くなっています。一方、女性社員は、昨年最も高かった20代で大幅に回数が減り、50代で増えている点が特徴的です。

設問：仕事が終わった後、一カ月で平均何回くらいお酒を飲みに行きますか？



1ヶ月の自宅での飲みの回数の平均は、男性社員が12.6回、女性社員が9.5回と、昨年と同水準です。年代別にみると、男性社員、女性社員ともに50代が最も高いものの、女性社員の50代では昨年より減少がみられます。

設問：1ヶ月あたり平均何回くらい自宅でお酒を飲みますか？

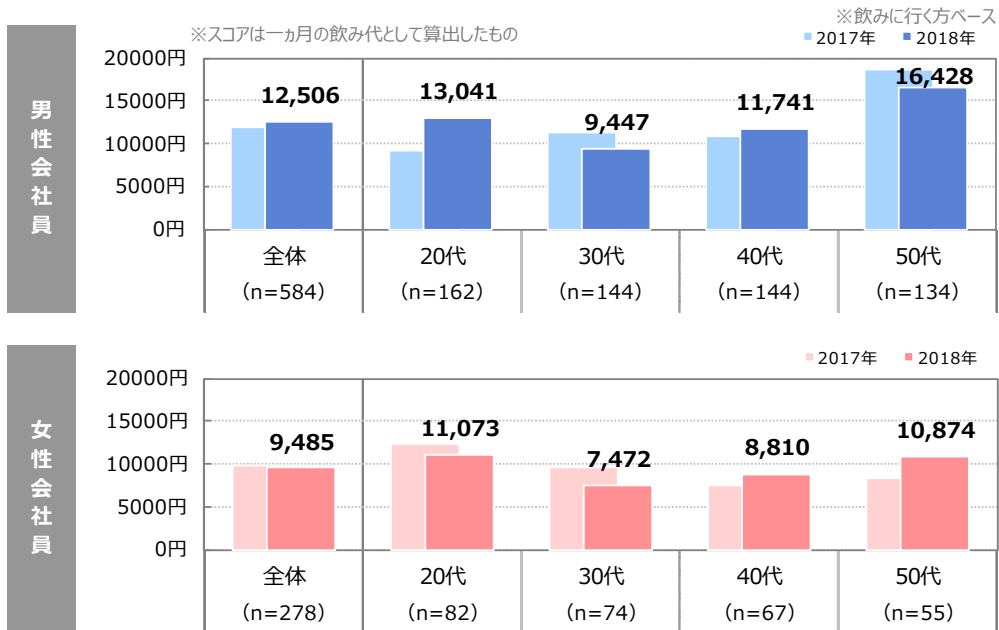


■ 1カ月の飲み代 ※飲みに行く方ベース

1回の飲み代と1カ月の飲み回数から算出した男性社員の1カ月の飲み代は、昨年より531円増え、12,506円となりました。年代別にみると、20代は昨年より増加している一方、30代、50代は昨年より大幅に減少しています。

女性社員は、男性社員より3,021円低い9,485円という結果になりました。年代別にみると、50代で昨年より大幅に増加している点が特徴的です。

設問：仕事が終わった後、一カ月に平均何回くらいお酒を飲みに行きますか？
あなたの飲み代は平均すると一回いくらですか？



【4】働き方改革によるお小遣いの使い方・やりくりの変化

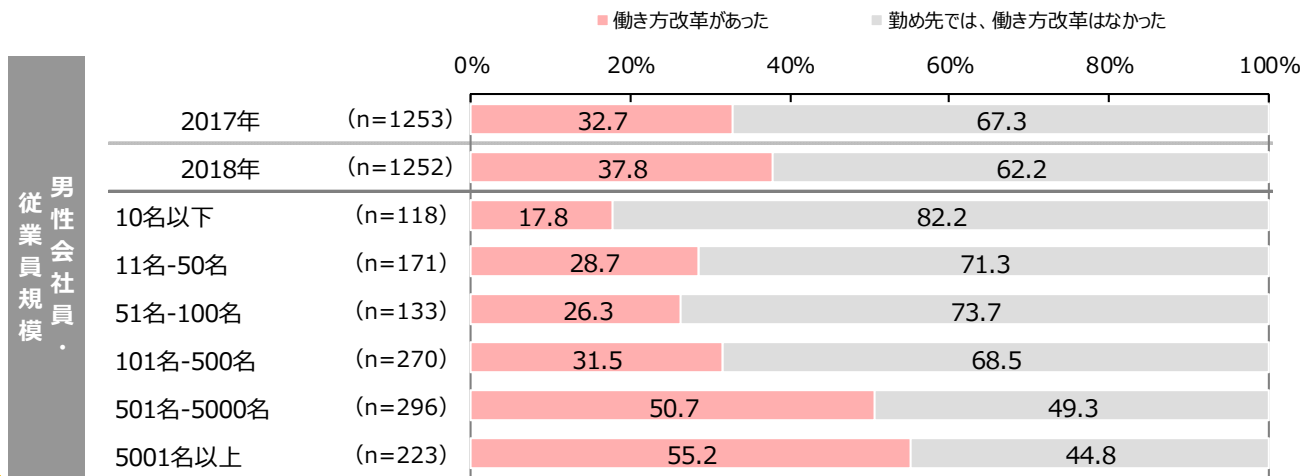
- ▶ 男性会社員では、37.8%が職場で働き方改革があったと回答。従業員規模が大きいほどその割合が増え、従業員規模が500名以上では半数を超える
- ▶ 働き方改革の内容としては、「残業が減った」が56.0%、「有休が取りやすくなった」が35.5%、「定時に帰宅できる日数が増えた」が27.7%と続く。従業員規模が5000名以上では「多様な形態で働けるようになった」が18.7%と、働き方改革がより踏み込んだ内容にまで及んでいる
- ▶ 働き方改革により約半数(46.9%)が「支出が増えた」と回答し、20代男性会社員は62.7%と支出の増加が顕著。内訳は「食費(飲み代除く)」33.8%、「飲み代」31.5%、「趣味の費用」が23.0%が続く

2018年4月に働き方改革関連法案が衆院本会議で審議入りするなど、戦後の労働基準法制定以来の70年ぶりの大改革が目まぐるしく進んでいます。では、企業の働き方改革により、会社員のお小遣いにどのような影響があったのでしょうか。

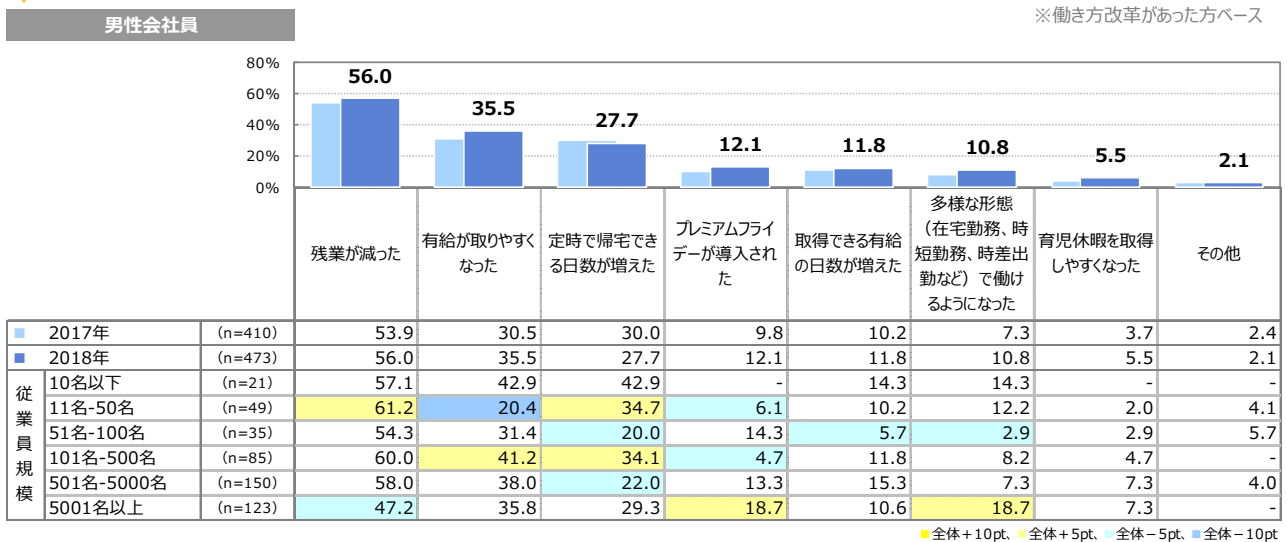
男性会社員における、働き方改革の有無は、37.8%が働き方改革があったと回答しており、昨年よりも5%ほど増加しています。勤務先の従業員規模別で見ると、従業員規模が大きいほど、働き方改革があった方が多い傾向がみられます。

働き方改革があった人における働き方改革の内容は、「残業が減った」が56.0%で最も高く、「有休が取りやすくなった」35.5%、「定時に帰宅できる日数が増えた」27.7%が続く結果となっています。昨年と比較して「有休が取りやすくなった」が5%ほど増加している点が特徴です。

設問：あなたのお勤め先では、直近1年間の間に下記に挙げるような働き方改革がありましたか。



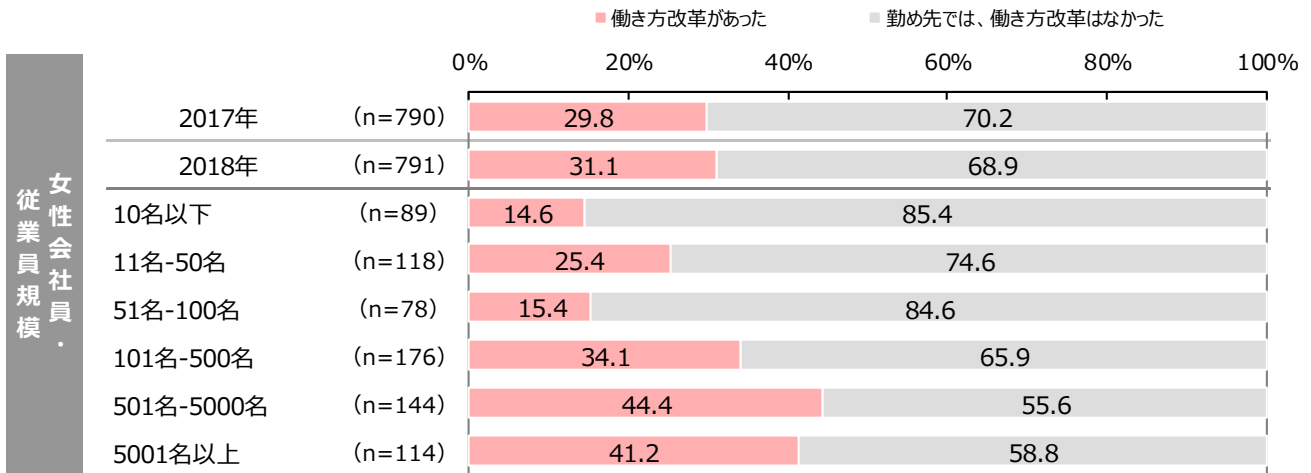
働き方改革の内容



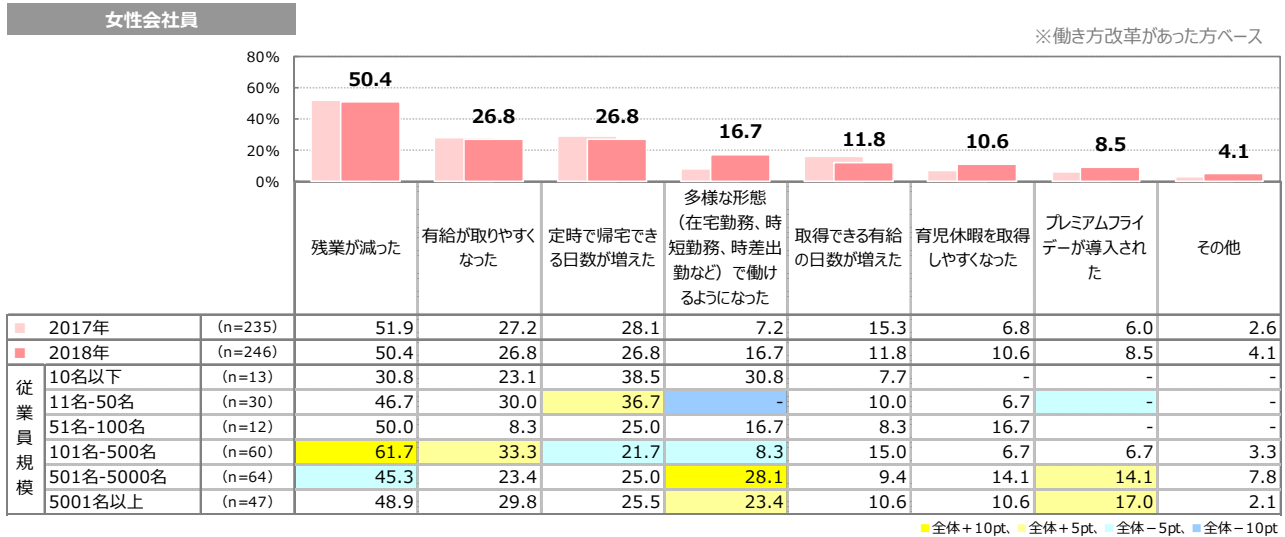
女性社員における、働き方改革の有無は31.1%となっており、男性社員同様、約3人に1人が働き方改革があったと回答しています。

働き方改革の内容は、「残業が減った」が50.4%で最も高く、「有休が取りやすくなった」26.8%、「定時で帰宅できる日数が増えた」26.8%が続き、男性社員と同様の結果となりました。

設問：あなたのお勤め先では、直近1年間の間に下記に挙げるような働き方改革がありましたか。



働き方改革の内容



※n=30未満は参考値として掲載

■ 働き方改革による行動の変化

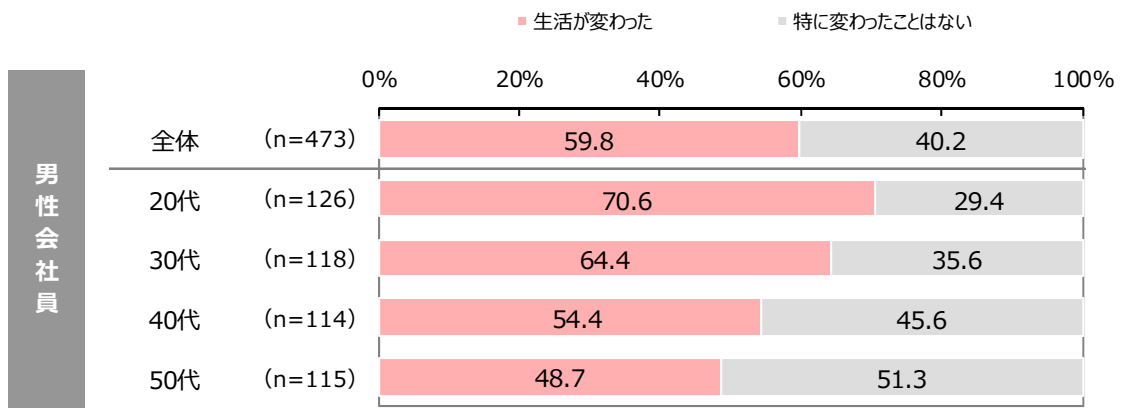
それでは、働き方改革があった方は、普段の生活に変化はあったのでしょうか。

男性社員の働き方改革があった方のうち、約6割の方が、「生活が変わった」と回答しています。年代別にみると、若年層ほど「生活が変わった」方が多く、働き方改革による普段の生活への影響は若年層ほど高い傾向がみられます。

また、生活が変わった人の普段の生活で変わったことをみると、「家族と過ごす時間が増えた」が39.9%と最も高く、「趣味の時間を増やすようになった」25.8%、「飲みに行く機会が増えた」17.0%が続きます。年代別にみると、20代で「飲みに行く機会が増えた」、40代、50代で「家族と過ごす時間が増えた」が高くなっており、年代によって普段の生活で変わったことに違いがある点が特徴としてみられます。

設問：働き方が変わったことによって、普段の生活が変わりましたか？
変わった方はどの様に変ったのかも含めてお答え下さい。

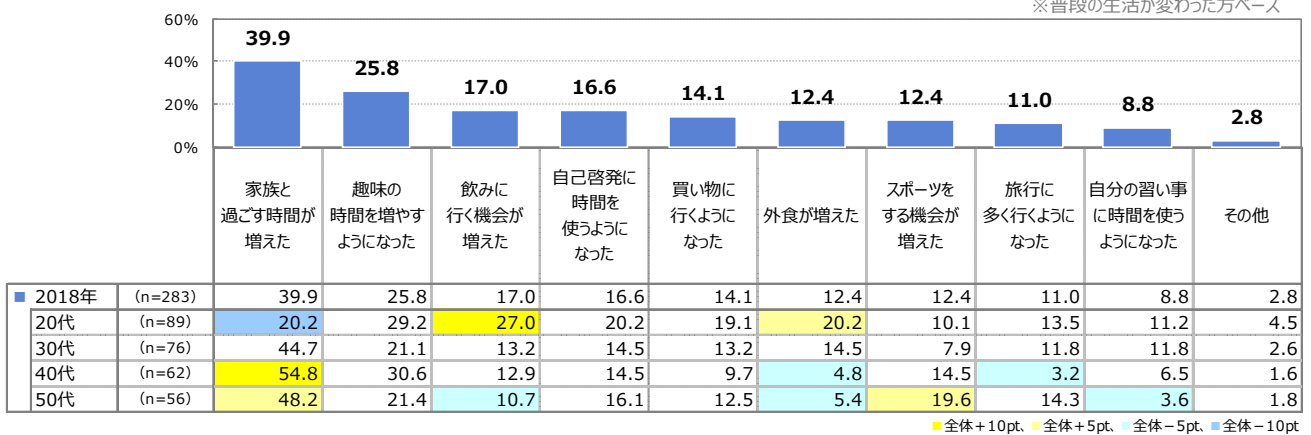
※働き方改革があった方ベース



普段の生活で変わったこと

男性社員

※普段の生活が変わった方ベース

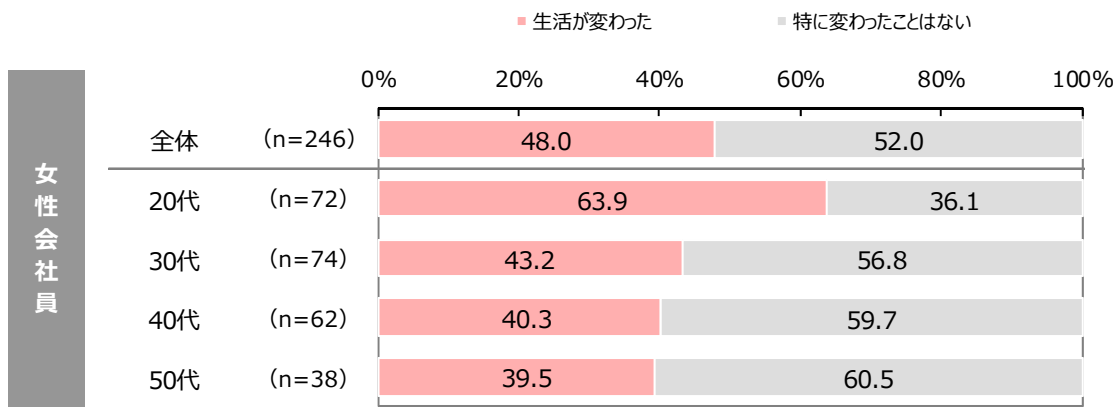


女性会社員では、48.0%の方が「生活が変わった」と回答しており、男性会社員と比較して、生活が変わった方が少ない結果となりました。年代別に見ると、若年層ほど「生活が変わった」方が多い傾向は男性会社員同様です。

また、生活が変わった人の普段の生活で変わったことをみると、「家族と過ごす時間が増えた」が44.9%と最も高く、「趣味の時間を増やすようになった」24.6%、「買い物に行くようになった」16.9%が続きます。男性会社員で3番目に挙がっていた「飲みに行く機会が増えた」が、女性会社員では8番目と、男性会社員よりも飲み時間に時間を割かない傾向がみられます。

設問：働き方が変わったことによって、普段の生活が変わりましたか？
変わった方はどの様に変ったかも含めてお答え下さい。

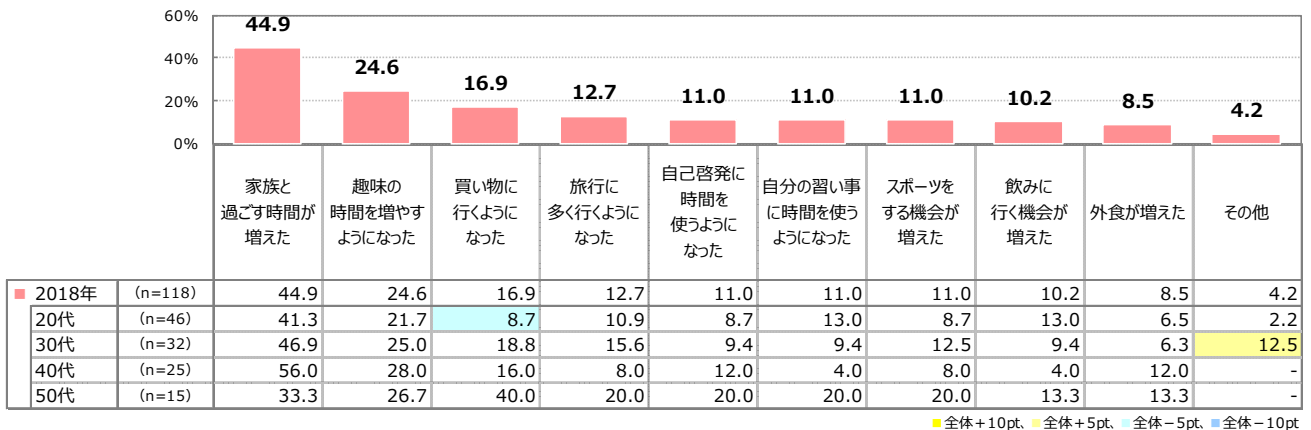
※働き方改革があった方ベース



普段の生活で変わったこと

女性会社員

※普段の生活が変わった方ベース



※n=30未満は参考値として掲載

■ 働き方改革による支出の変化

次に、働き方改革があった方の、働き方の変化による支出への影響をみていきます。

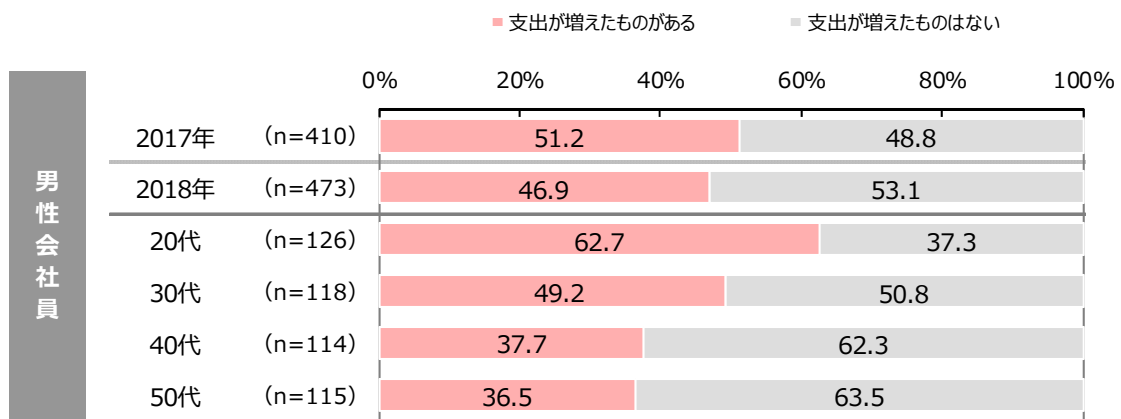
男性会社員では、約半数の方が、働き方改革によって「支出が増えたものがある」と回答しています。年代別にみると、若年層ほど支出が増えた方が多い傾向がみられます。

支出が増えたものは、「食費(飲み代除く)」が33.8%で最も高く、「飲み代」31.5%、「趣味の費用」23.0%と続いており、飲食費が増えていることがわかります。特に、飲み代は前年より10%以上増加している点が特徴です。

また、年代別にみると「食費(飲み代除く)」や「飲み代」は40代、50代で低くなっており、支出が増えたものにおいても若年層との違いがみられます。

設問：働き方が変わったことによって、支出が増えたものはありますか。
ある方は支出が増えたものをすべてお選び下さい。

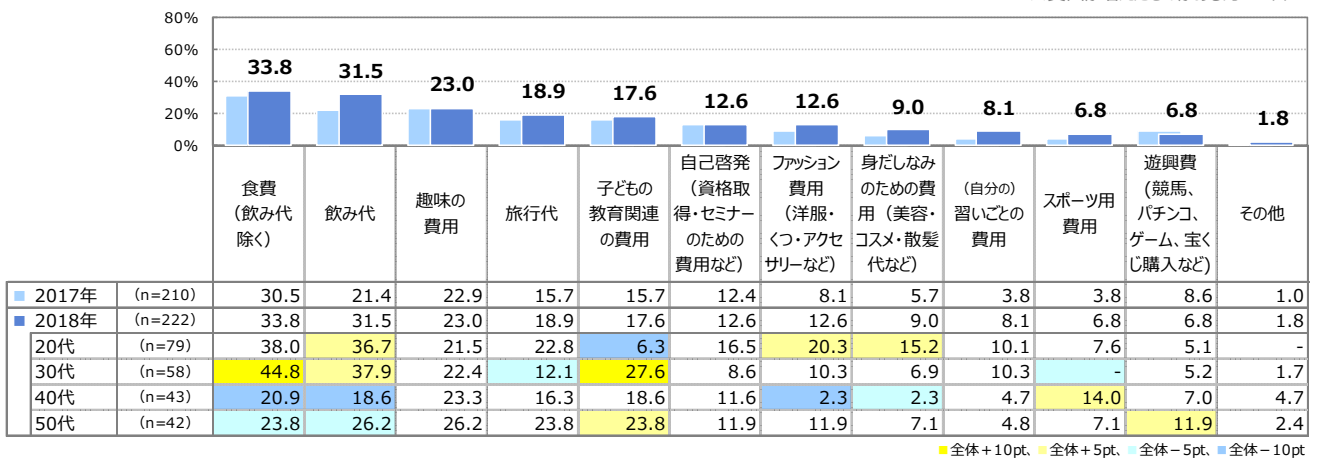
※働き方改革があった方ベース



支出が増えたもの

男性会社員

※支出が増えたものがある方ベース

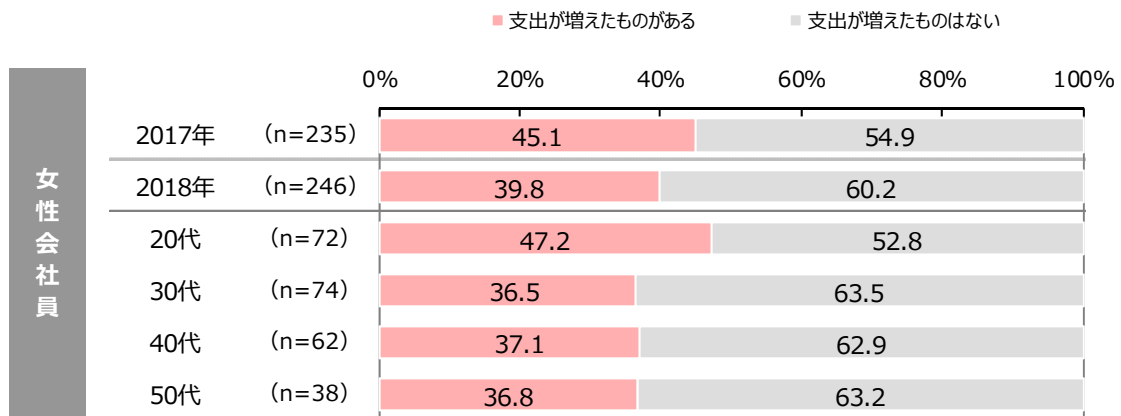


女性社員においては、約4割の方が「支出が増えたものがある」と回答しています。年代別の傾向では、20代で支出が増えた方が多い傾向がみられます。

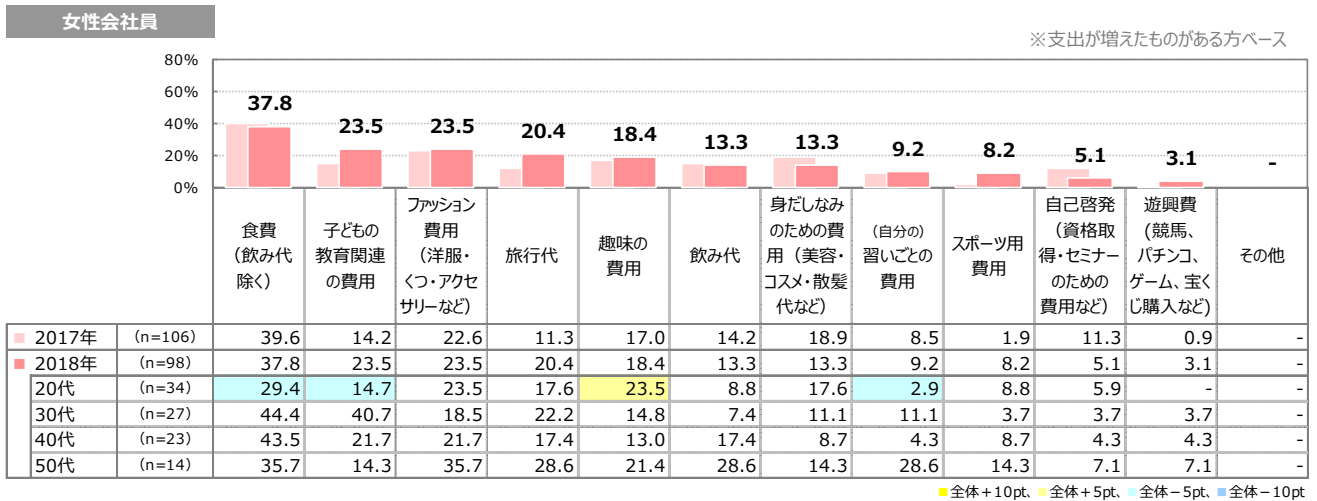
支出が増えたものは、「食費(飲み代除く)」が37.8%で最も高く、「子供の教育関連の費用」23.5%、「ファッション費用」23.5%と続いており、男性社員と比較して、子供や身の回りのことについての支出が増えている点が特徴的です。

設問：働き方が変わったことによって、支出が増えたものがありますか。
ある方は支出が増えたものをすべてお選び下さい。

※働き方改革があった方ベース



支出が増えたもの



※n=30未満は参考値として掲載

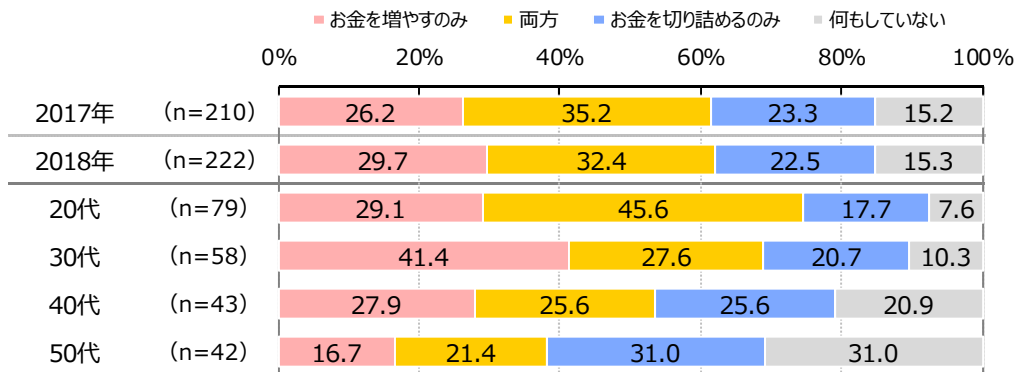
■ 支出が増えた分のまかない方

では、支出が増えた方は、増えた分のお金をどのようにして賄っているのでしょうか。

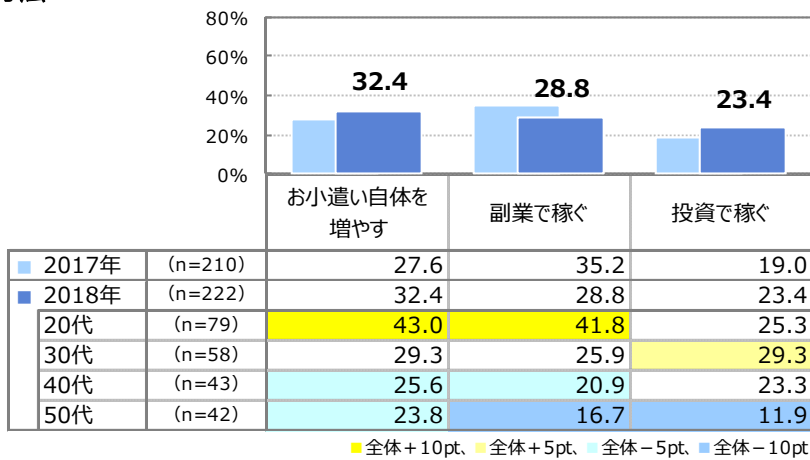
男性会社員における、支出が増えた分の賄い方は、「お金を増やすのみ」が29.7%、「お金を切り詰めるのみ」が22.5%、「両方」行っている方が32.4%となっており、8割強の方が何かしらの行動をしています。お金を増やす方法では、「お小遣い自体を増やす」が32.4%で最も高く、若年層ほど高い点が特徴的です。一方、お金を切り詰める方法では、「昼食代」が28.8%で最も高く、「飲み代」26.1%と続くことから、飲食代で切り詰める傾向がみられます。

設問：支出が増えた／増える分を、どのように賄っていますか(賄う予定ですか)。

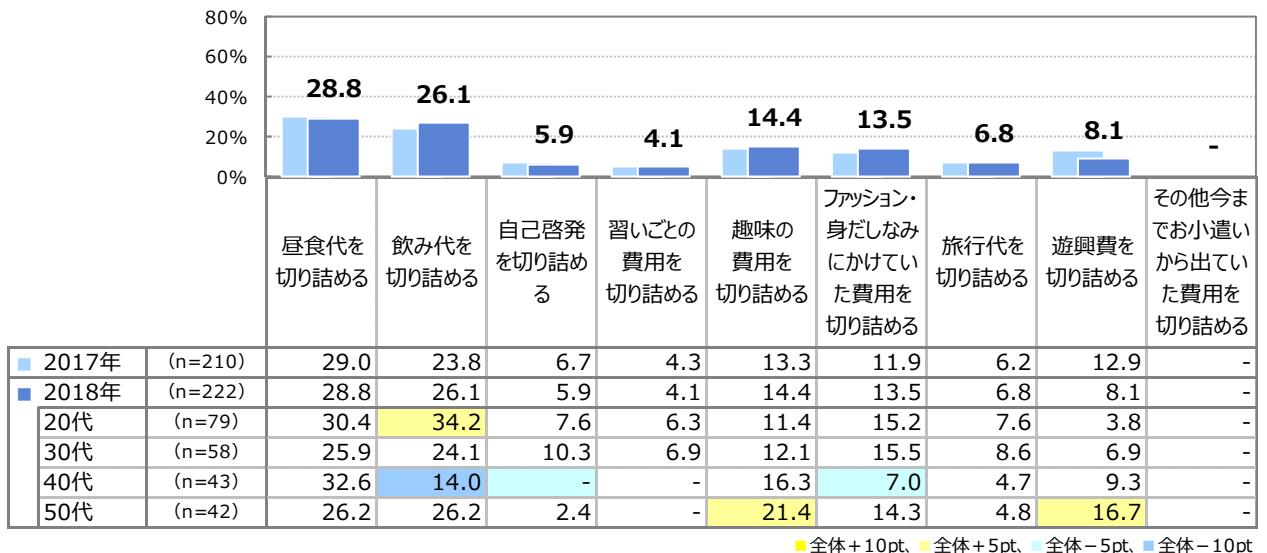
※働き方改革があったかつ支出が増えたものがある方ベース

男性会社員


■ お金を増やす方法



■ お金を切り詰める方法



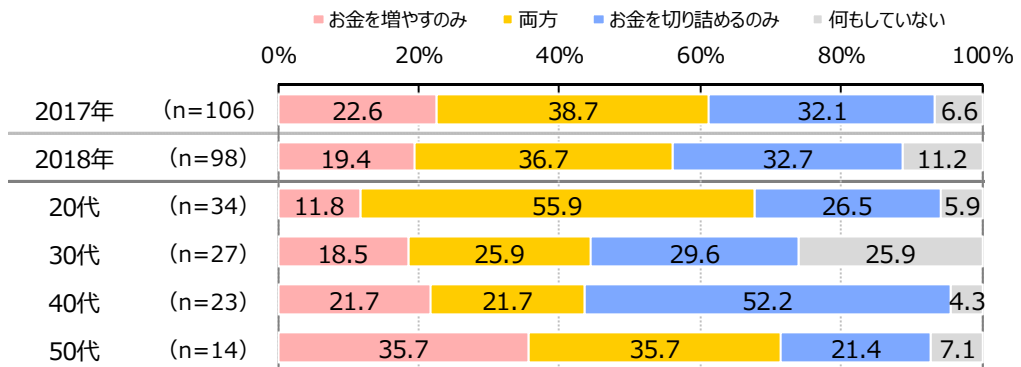
女性会社員では、「お金を増やすのみ」が19.4%、「お金を切り詰めるのみ」が32.7%、「両方」行っている方が36.7%となっており、男性会社員と比較して、「お金を切り詰める」方が多い傾向がみられます。

お金を増やす方法は、「副業で稼ぐ」が34.7%と最も高く、若年層ほど高い点が特徴的です。一方、お金を切り詰める方法は、「昼食代」が48.0%で最も高く、「飲み代」(23.5%)と続く点は、男性会社員同様ですが、男性会社員よりも「昼食代を切り詰める」割合が高い点が特徴的です。

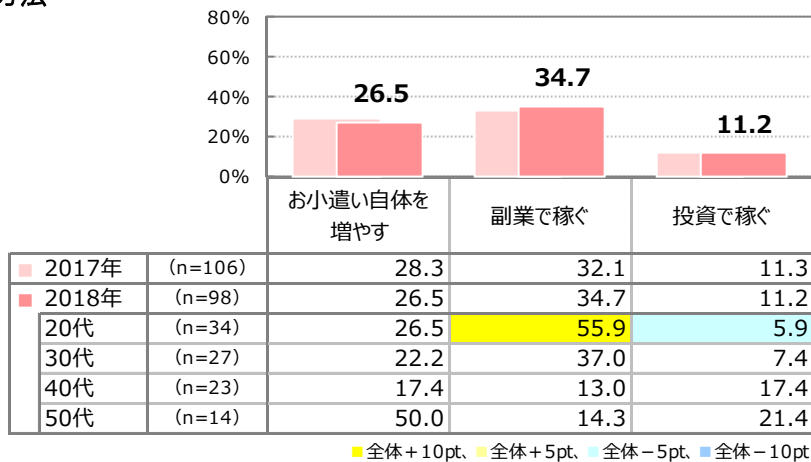
設問：支出が増えた／増える分を、どのように賄っていますか(賄う予定ですか)。

※働き方改革があったかつ支出が増えたものがある方ベース

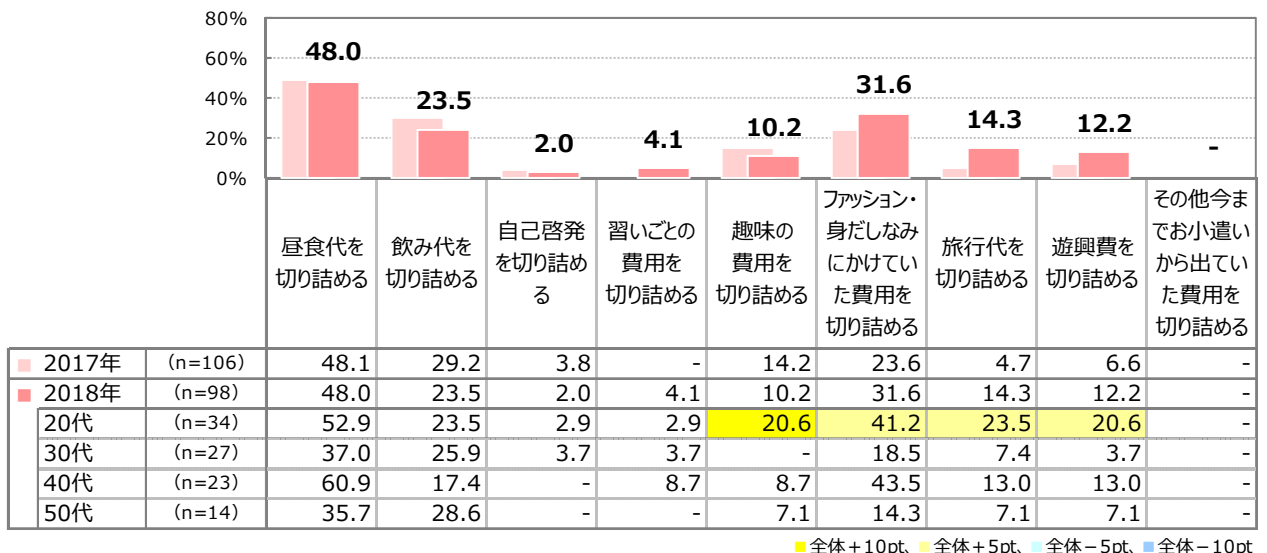
女性会社員



■ お金を増やす方法



■ お金を切り詰める方法



【5】消費税の負担感、経済的なゆとり

- ▶ 男性会社員では、消費税に負担を感じる人の割合が73.1%と昨年より1.2%減増し、高い水準
- ▶ 女性会社員では、消費税に負担を感じている人の割合が80.4%と男性会社員より7.3%高い
- ▶ 『世帯年収』と『日常生活のゆとり』から、経済的なゆとりを確認した結果、男性、女性会社員ともに「苦しい」層が半数以上を占め、特に女性会社員は「年収低×苦しい」層が最も多く35.0%を占める

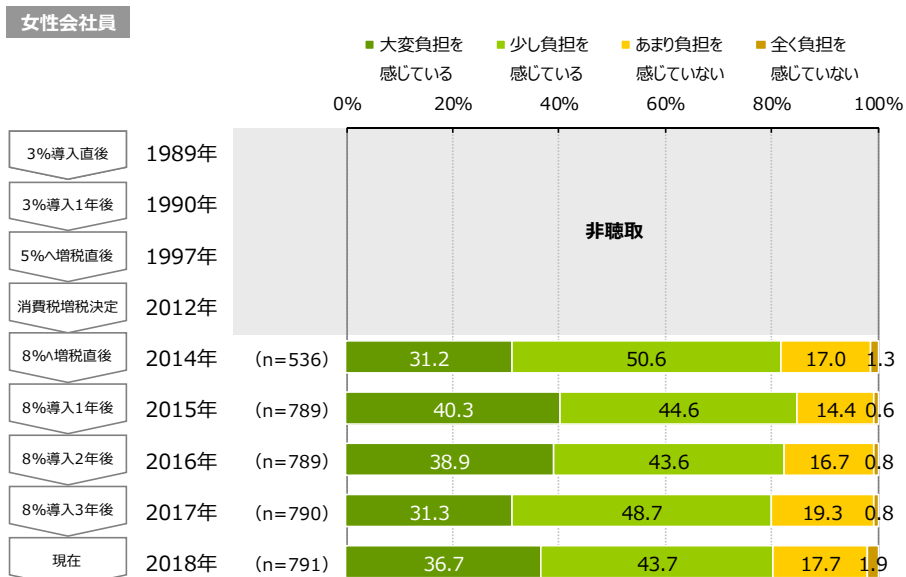
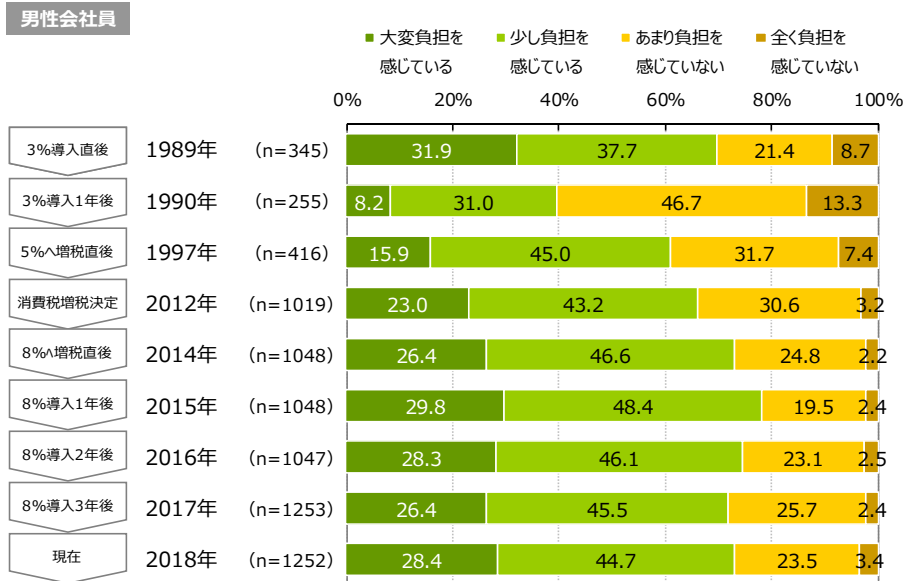
■ 消費税によるお小遣いの負担感

2014年4月1日より、消費税率が5%から8%に引き上げられました。増税から4年が経過し、お小遣い面での消費税による負担はどのように変化したのでしょうか。

男性会社員では、負担を感じている(「大変負担を感じている」+「少し負担を感じている」)層が73.1%と、昨年より1.2%微増しており、依然として高い水準となっています。

女性会社員では、負担を感じている(「大変負担を感じている」+「少し負担を感じている」)層が80.4%と、昨年同様、男性会社員よりも負担に感じている方が多いようです。

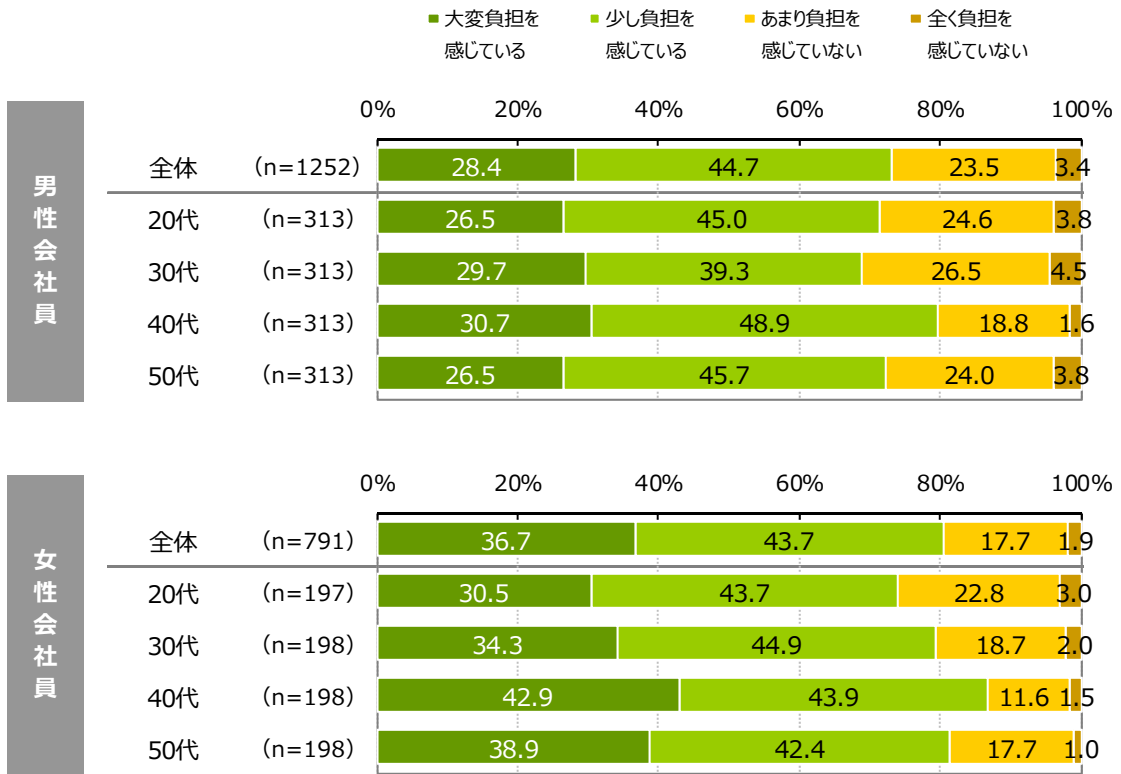
設問：あなたは、“おこづかい”の面で、消費税の負担を感じていますか。



男性会社員における消費税の負担感を、年代別にみると、「大変負担を感じている」層が20代で低くなっています。

女性会社員でも、男性会社員同様、「大変負担を感じている」層が20代で低くなっていますが、いずれの年代でも男性より負担を感じている様子がみられます。

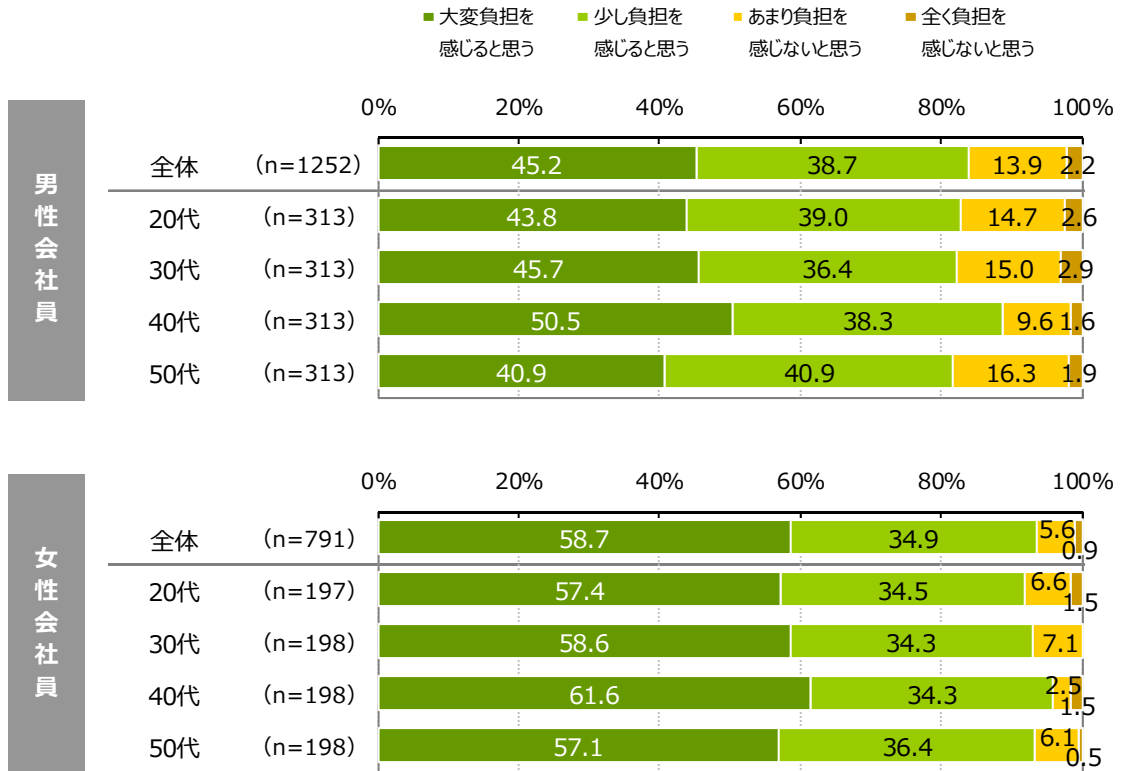
設問：あなたは、“おこづかい”の面で、消費税の負担を感じていますか。



また、消費税が10%に引き上げられた場合の消費税の負担感を聞くと、男性会社員では、負担を感じると思う(「大変負担を感じると思う」+「少し負担を感じると思う」層が83.9%と、消費税8%の負担を感じている(73.1%)と比較して10.8%高くなります。

女性会社員でも、負担を感じると思う(「大変負担を感じると思う」+「少し負担を感じると思う」層が93.6%と、消費税8%の負担を感じている(80.4%)と比較して13.2%高くなります。消費税が10%に引き上げられることによるお小遣いへの影響の大きさが予想されます。

設問：あなたは、今後消費税が10%に引き上げられた場合、“おこづかい”の面でどの程度負担を感じると思いますか。



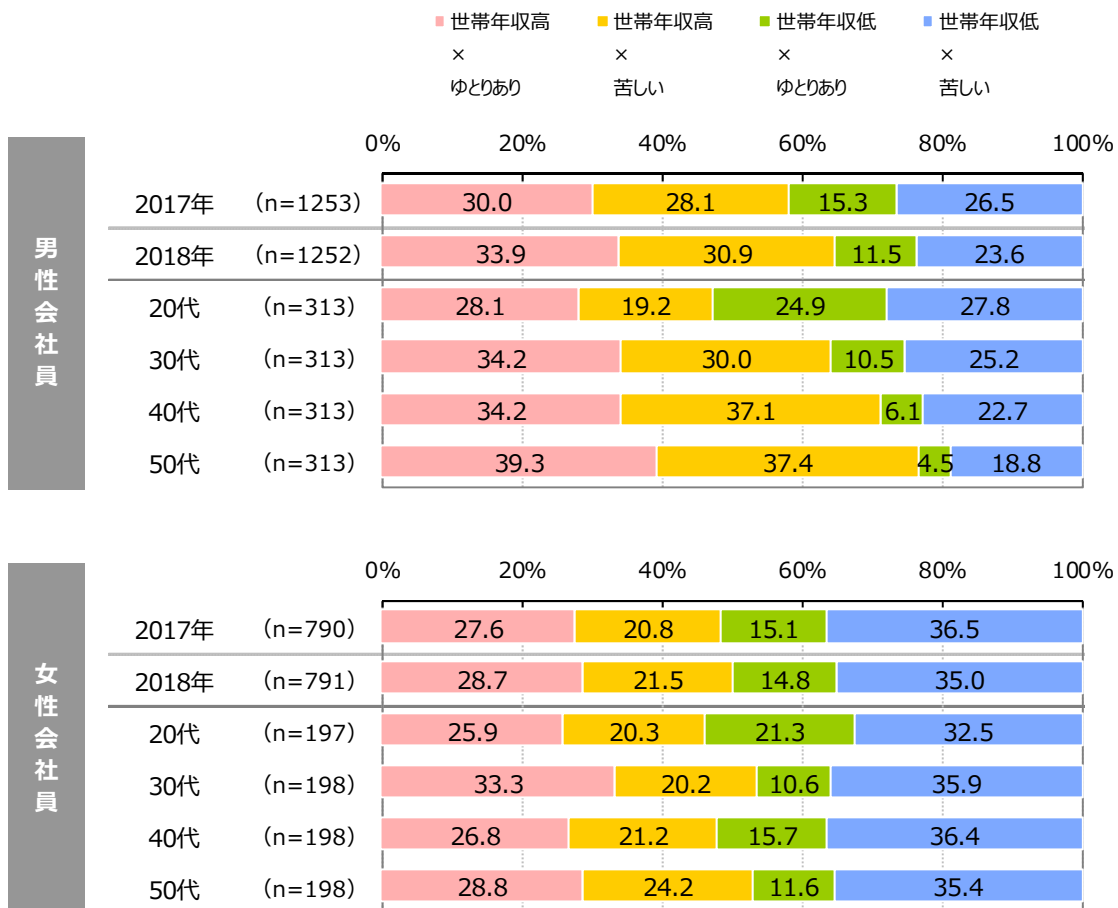
■ 経済的なゆとり

「世帯年収」と「日常生活のゆとり」から、経済的なゆとりを確認します。「世帯年収」は、500万円以上を“高”、500万円未満を“低”と定義し、「日常生活のゆとり」は、「大いにゆとりがある」+「まあまあゆとりがある」を“ゆとりあり”、「大変苦しい」+「やや苦しい」を“苦しい”と定義します。それぞれを掛け合わせ、経済的なゆとりにおいて、4層のグループを作成しました。

男性会社員では、昨年同様「世帯年収低×ゆとりあり」層が11.5%と最も少なく、「世帯年収高×ゆとりあり」と「世帯年収高×苦しい」がそれぞれ3割程度を占めています。年代別にみると、20代において「世帯年収低×ゆとりあり」層が24.9%と、他の年代よりも高くなっており、未婚率の高い20代は、世帯年収が低くても、ある程度ゆとりを持って生活できていることがわかります。一方で、年代が上がるほど、「世帯年収高×苦しい」の割合が高くなっている点が特徴的です。

女性会社員では、「世帯年収低×苦しい」が35.0%とボリュームゾーンになっており、男性会社員に比べて生活逼迫感を感じている層が多いのが特徴的です。年代別にみると、男性会社員でみられた、年代が上がるほど「世帯年収高×苦しい」の割合が高くなっている傾向がみられない結果となっております。

設問：“おこづかい”面からみて、この一年間のあなたの日常生活はいかがですか？

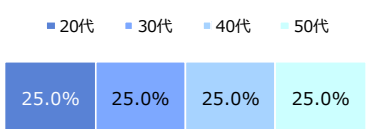
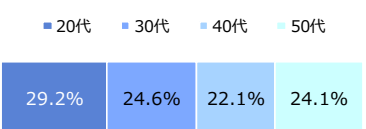
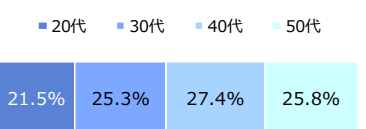
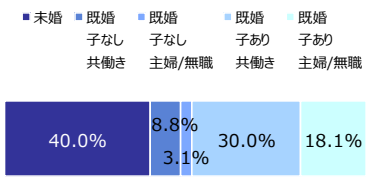
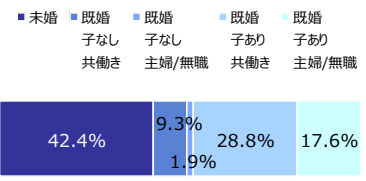
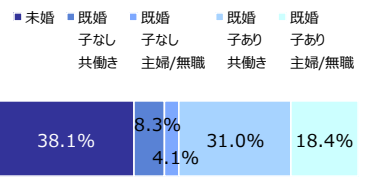


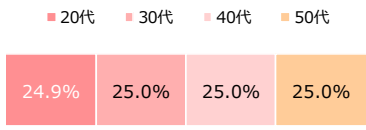
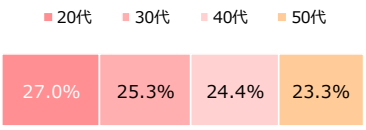
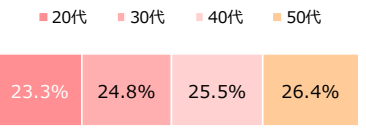
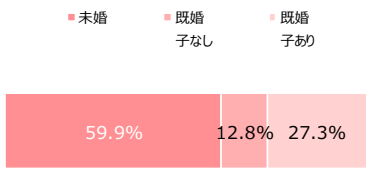
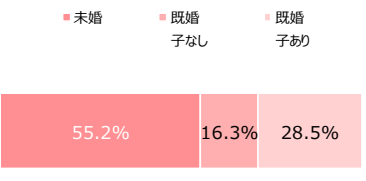
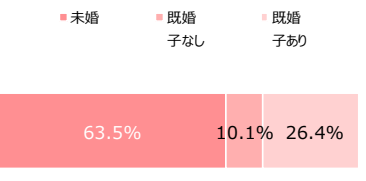
■ ゆとりがある層／ない層のプロファイル比較

お小遣い面からみて、「ゆとりがある層」と「ゆとりがない層」を、会社員全体と比較したものを以下に掲載します。ここから、「ゆとりがある層」と「ゆとりがない層」がどのような方なのかを確認します。

男性会社員の「ゆとりがある層」は、20代がやや多く、若年層寄りの傾向がみられます。また、全体に比べて、個人年収は64万円、世帯年収では85万円高い結果となり、収入自体の多さがわかります。一方、「ゆとりがない層」は、全体より20代以外がやや多く、個人年収・世帯年収ともに、全体よりも低い結果でした。

女性会社員の「ゆとりがある層」も、男性会社員同様、20代がやや多く、個人年収、世帯年収ともに高い結果となっています。

	男性会社員 全体 (n=1252)	ゆとりがある層 (n=569)	ゆとりがない層 (n=683)
年齢			
年収	個人年収 534 万円 世帯年収 669 万円	個人年収 598 万円 世帯年収 754 万円	個人年収 481 万円 世帯年収 598 万円
家族構成			

	女性会社員 全体 (n=791)	ゆとりがある層 (n=344)	ゆとりがない層 (n=447)
年齢			
年収	個人年収 320 万円 世帯年収 597 万円	個人年収 376 万円 世帯年収 725 万円	個人年収 277 万円 世帯年収 500 万円
家族構成			

【6】お小遣いの使いみち、やりくり術

- ▶ お小遣いの使いみちトップ3は、男性会社員は「昼食代」が43.2%、「携帯電話代」が24.3%、「嗜好品代」が21.2%。女性会社員は「携帯電話代」が35.5%、「昼食代」が34.9%、「身だしなみのための費用」が31.9%
- ▶ 男性会社員の80.3%、女性会社員の90.1%がお小遣い面で何らかのやりくりを実施しており、具体的なやりくり術は、男性会社員は「昼食費を安くする」、女性会社員は「弁当を持参する」がトップ
- ▶ 男女とも2割弱は副収入があり、1か月あたりの副収入額が男性会社員で平均31,742円に対し、女性会社員は平均22,930円と金額に8,812円の差がある

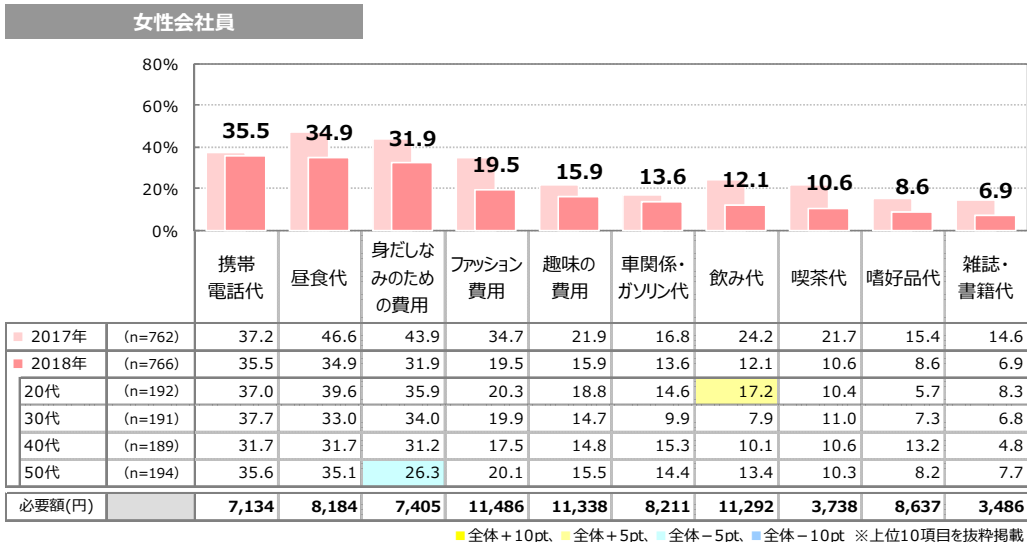
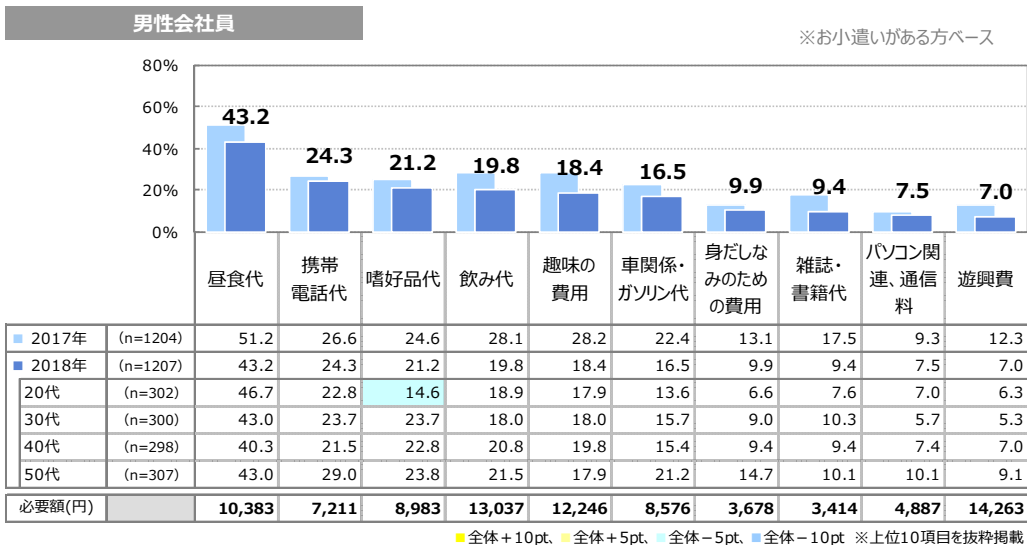
■ 必要不可欠な使いみちと必要額(月額)

お小遣いの使いみちとして必要不可欠な項目を、上位10項目抜粋したものが以下となります。

男性会社員では、「昼食代」が他項目に比べて20%程度高く、昨年同様トップとなりました。「昼食代」の必要額は平均10,383円です。なお、必要額が最も高い項目は、必要不可欠な項目順位としては10番目に高い「遊興費」となっています。また、昨年と比べると、「飲み代」、「趣味の費用」、「雑誌・書籍代」で大幅に下がっている点が特徴です。

女性会社員は、「携帯電話代」が35.5%と最も高く、以下「昼食代」、「身だしなみのための費用」、「ファッション費用」が続きます。必要額が最も高い項目は、「ファッション費用」で11,486円という結果となりました。

設問：あなたの“おこづかい”の使いみちとして、必要不可欠なものは何ですか？
また、その項目の月々に必要な金額をお答えください。



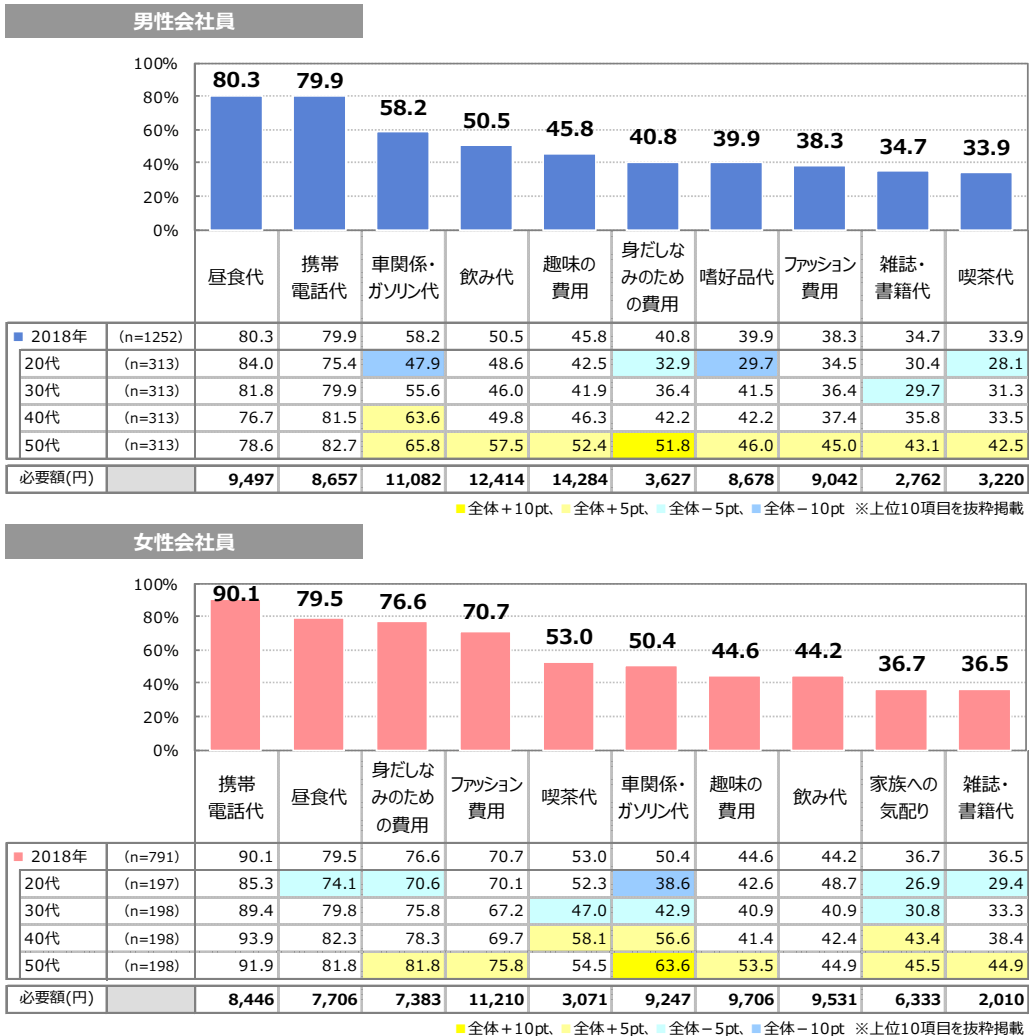
■ 月々の出費

月々の出費として使用している項目の上位10項目抜粋したものが以下となります。

男性会社員では、「昼食代」が80.3%と最も高く、以下「携帯電話代」、「車関係・ガソリン代」が続きます。なお、必要額が最も高い項目は「趣味の費用」で14,284円となっております。

女性会社員では、「携帯電話代」が90.1%と最も高く、以下「昼食代」、「身だしなみのための費用」、「ファッション費用」が続きます。男性会社員と比較して、「身だしなみのための費用」、「ファッション費用」が上位に来ており、男性会社員と女性会社員で、「携帯電話代」や「昼食代」以外のお金のかけ方に違いがみられます。

設問：あなたは、下記の項目に月々いくらかけていますか。



■ お小遣いのやりくりと節約術

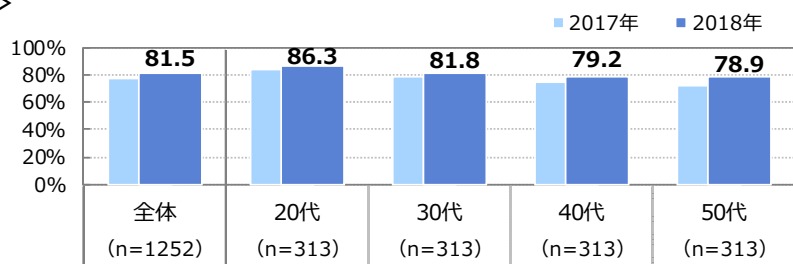
男性会社員における、お小遣いのやりくり実施率は81.5%と、比較的多くの方が、何かしらの節約策を実行していることがわかります。具体的なやりくり術には、「昼食費を安くする」、「外で飲む回数を減らす」、「水筒を持参する」などが上位に挙げられます。また、すべての年代に共通して「昼食費を安くする」が最も高くなっています。

女性会社員におけるやりくり実施率は、男性会社員よりも高く、約9割の方が節約策を実行しています。具体的なやりくり術には、「弁当を持参する」、「昼食費を安くする」、「水筒を持参する」といった、オフィスでの飲食に関する節約策が上位に挙げられます。また男性会社員と比べて洋服・靴に関する項目が上位に挙がる点が特徴的です。

設問：あなたは、“おこづかい”面でみて、ここ最近、やりくりをしていることがありますか。

男性会社員

<やりくり実施率>



■ 1位 ■ 2位 ■ 3位 ■ 4位 ■ 5位

具体的なやりくり術

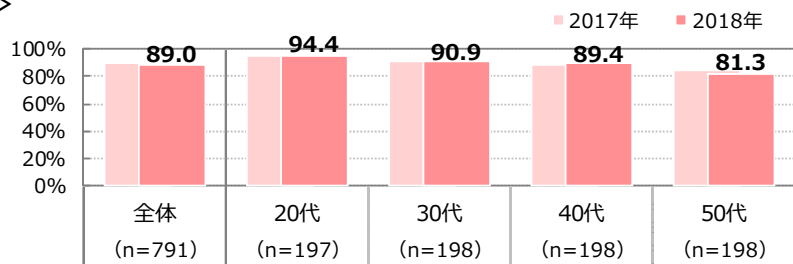
(%)

やりくり術	2017年 (%)	2018年 (%)
昼食費を安くするように努力している	40.3	42.8
外で飲む回数を減らしている	27.2	25.6
水筒を持参するようにしている	25.2	29.1
タクシーなどに乗らないようにしている	22.9	26.8
少し遅くても歩くようにしている	22.8	23.0
弁当を持参するようにしている	22.6	26.8
衝動買いをしないようにしている	22.4	26.2

※上位7項目を抜粋掲載

女性会社員

<やりくり実施率>



■ 1位 ■ 2位 ■ 3位 ■ 4位 ■ 5位

具体的なやりくり術

(%)

やりくり術	2017年 (%)	2018年 (%)
弁当を持参するようにしている	46.0	49.2
昼食費を安くするように努力している	45.6	50.8
水筒を持参するようにしている	41.7	49.7
洋服・靴など、安いものを買うようにしている	33.8	38.6
衝動買いをしないようにしている	32.5	32.5
洋服・靴などを買わないようにしている	28.1	35.5
タクシーなどに乗らないようにしている	25.3	30.5

※上位7項目を抜粋掲載

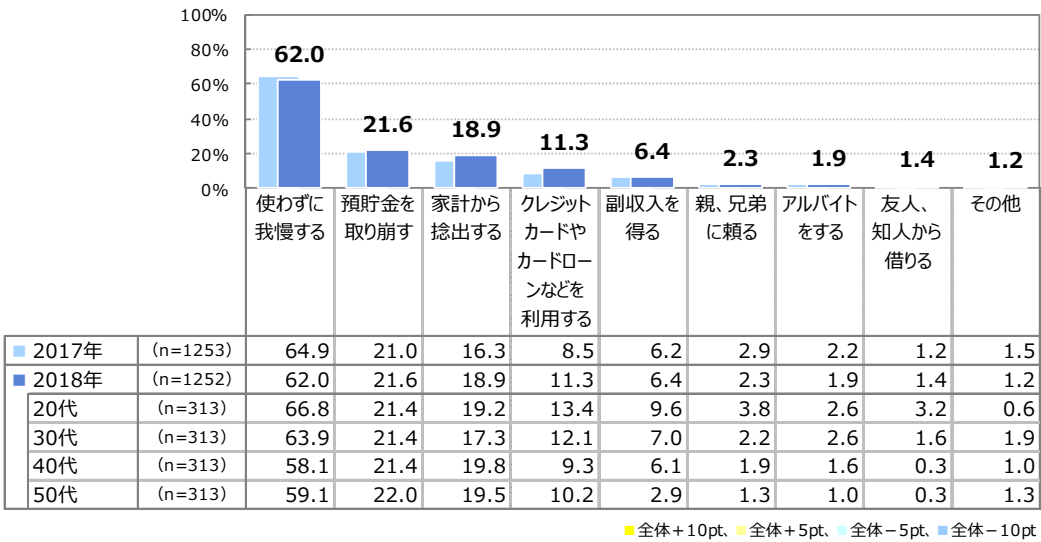
■ お小遣い不足時の対応

男性会社員における、お小遣い不足時の対応では、「使わずに我慢する」が62.0%で突出しています。以降、「預貯金を取り崩す」、「家計から捻出する」が続き、昨年同様、手持ちのお金で対応するケースが多いようです。年代別にみると、「使わずに我慢する」は、若年層ほど高い点が特徴的です。

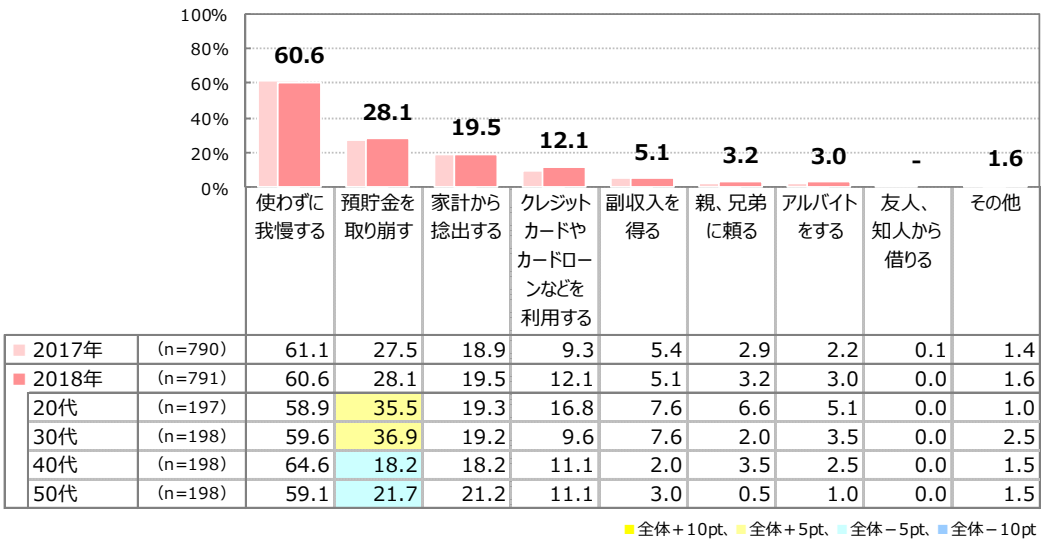
女性会社員においても、男性会社員と同様に、「使わずに我慢する」が60.6%と突出しています。以降、「預貯金を取り崩す」、「家計から捻出する」が続く点も共通しています。年代別にみると、20代、30代で「預貯金を取り崩す」が高い点が特徴です。

設問：“おこづかい”が足りなくなったとき、あなたはどのようにやりくりしていますか？

男性会社員



女性会社員



■ 副収入事情

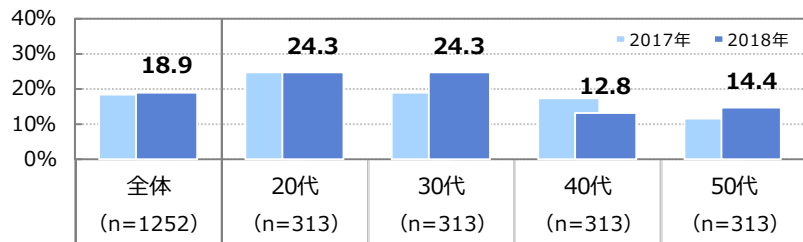
男性社員の18.9%は副収入があり、1ヵ月あたりにおおよそ3万円強の収入額となっています。その収入源は、「ポイント・アンケートサイト」が58.2%と最も多く、「株式投資」、「アルバイト・副業」などが続きます。年代別にみると、副収入を得ている割合は、20代、30代で高い傾向がみられます。また、50代では副収入を得ている割合が最も高く、「不動産投資」の割合が多いことが起因していると推測できます。

女性社員も、男性社員とほぼ同様の傾向ですが、収入源における「ポイント・アンケートサイト」の割合が62.1%と高い点が特徴的です。また、男性社員と比較して副収入額は低い傾向にあります。

設問：あなたは給与以外に副収入がありますか？ある方は月にどのくらいの収入を得ていますか？
どのような方法で副収入を得ていますか？

男性社員

<副収入を得ている割合>



副収入額と収入源

※副収入がある方ベース

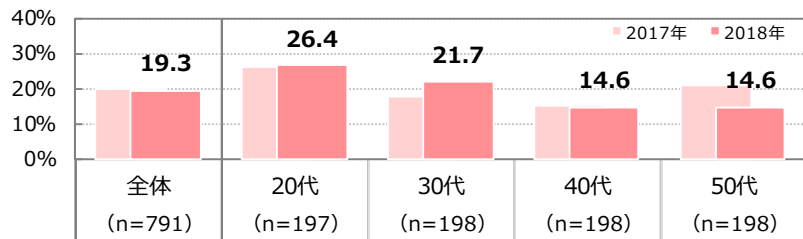
1ヵ月当たりの副収入額	(n=231)	(n=75)	(n=76)	(n=39)	(n=41)
	31,742円	18,905円	21,118円	46,769円	59,099円

収入源	2017年 (%)	2018年 (%)
ポイントサイト、アンケートサイト	58.2	37.8
株式投資	29.1	31.1
アルバイト・副業	16.9	26.7
FX等の外国為替取引	15.2	11.1
ネットオークション	12.2	2.2
不動産投資（売買収益、賃貸収入など）	8.4	13.3
ギャンブル（パチンコ、競馬、競艇など）	7.6	8.9

■ 1位 ■ 2位 ■ 3位 ■ 4位 ■ 5位 ※上位7項目を抜粋

女性社員

<副収入を得ている割合>



副収入額と収入源

※副収入がある方ベース

1ヵ月当たりの副収入額	(n=153)	(n=52)	(n=43)	(n=29)	(n=29)
	22,930円	8,771円	13,702円	30,414円	54,517円

収入源	2017年 (%)	2018年 (%)
ポイントサイト、アンケートサイト	62.1	44.8
アルバイト・副業	27.5	31.0
フリーマーケット	20.3	13.8
ネットオークション	16.3	10.3
株式投資	10.5	24.1
懸賞	6.5	13.8
ギャンブル（パチンコ、競馬、競艇など）	3.3	3.4

■ 1位 ■ 2位 ■ 3位 ■ 4位 ■ 5位 ※上位7項目を抜粋

※インターネットサーチを行っているため、「ポイントサイト、アンケートサイト」が高くなっています。

※n=30未満は参考値として掲載

【7】サラリーマンの給与管理状況

- 既婚男性会社員の約3人に2人(61.7%)が「お給料の“全額”を家庭に入れている」と回答。20代は56.5%と他世代に比べて低くはあるが、若い世代にもお小遣い制が浸透しているという結果に
- 既婚女性会社員は、男性会社員に比べて全額を家庭に入れる割合が低く37.2%

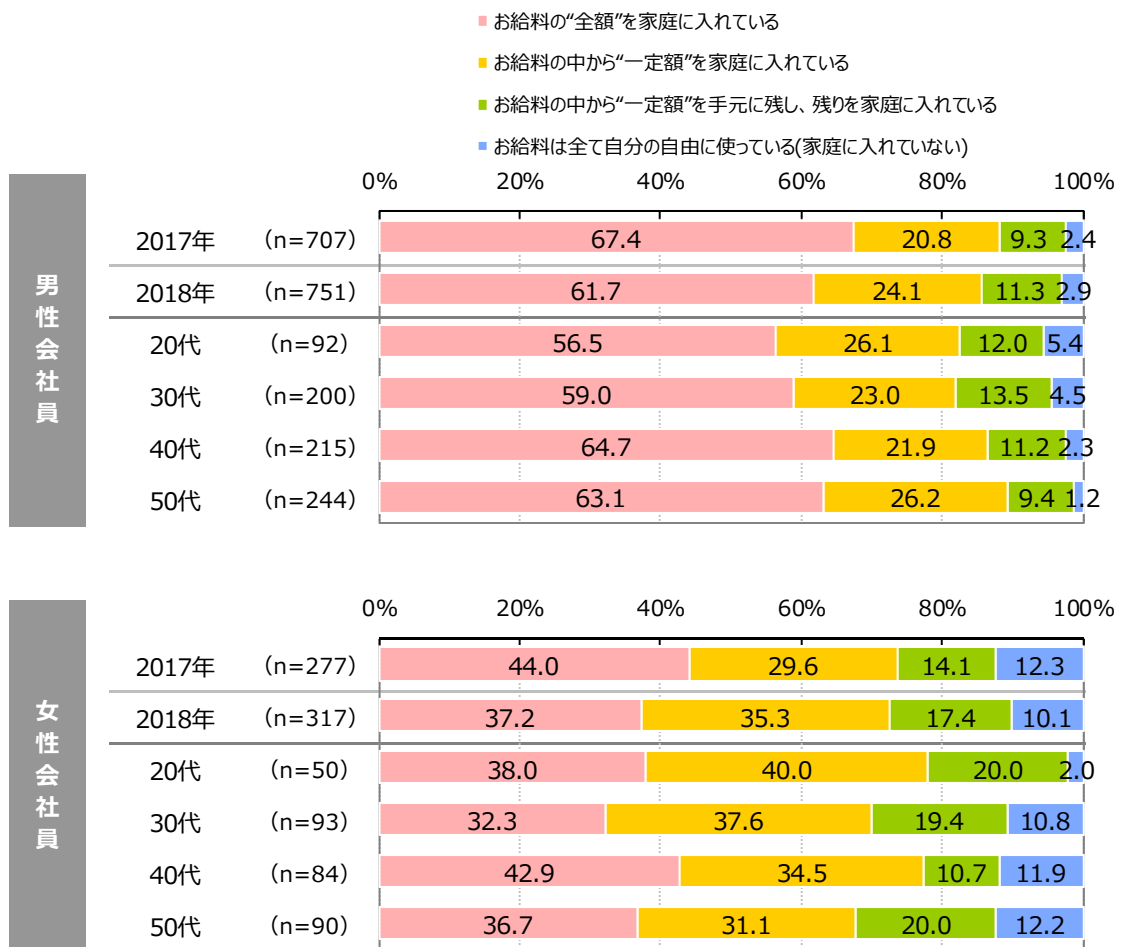
■ 給与管理状況

男性会社員の既婚世帯では、約3人に2人(61.7%)が「お給料の“全額”を家庭に入れている」という結果で、多くがお小遣い制であることが分かります。一方で、昨年と比べると、「お給料の“全額”を家庭に入れている」割合は6%ほど減少しています。年代別にみると、若年層ほど、「お給料の“全額”を家庭に入れている」割合が低くなっている点が特徴です。

女性会社員でも、「お給料の“全額”を家庭に入れている」割合が最も高いものの、男性会社員と比べて、全額を家庭に入れている割合は低くなっています。

設問：あなたのお給料は、どのようにして管理していますか。

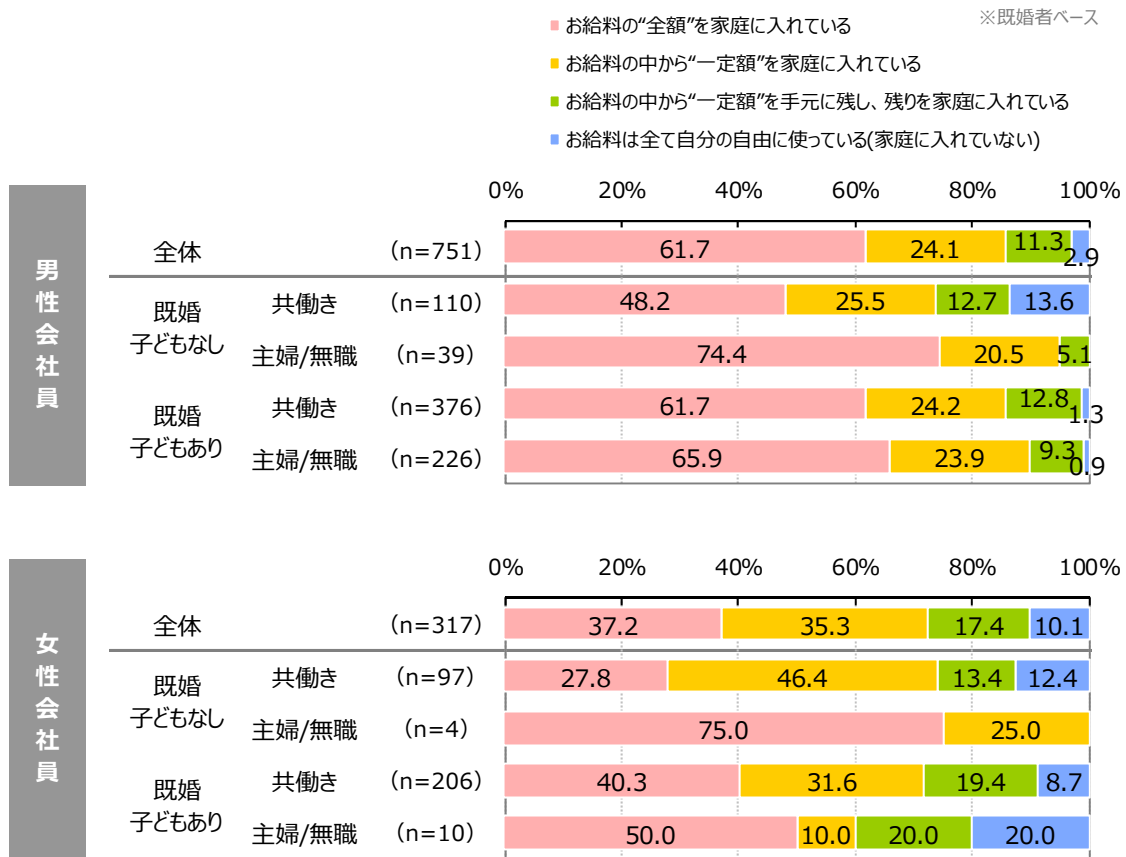
※既婚者ベース



男性会員の給与管理状況をライフステージ別にみると、DINKS世帯(既婚・子どもなし・共働き)は、「お給料はすべて自分の自由に使っている」が13.6%を占め、全体よりも高い傾向にあります。また、共働きの世帯よりも、主婦/無職の世帯のほうが、「お給料の“全額”を家庭に入れている」が高くなっています。

女性社員では、DINKS世帯は「お給料の中から“一定額”を家庭に入れている」が46.4%と全体よりも高い傾向にあります。

設問：あなたのお給料は、どのようにして管理していますか。

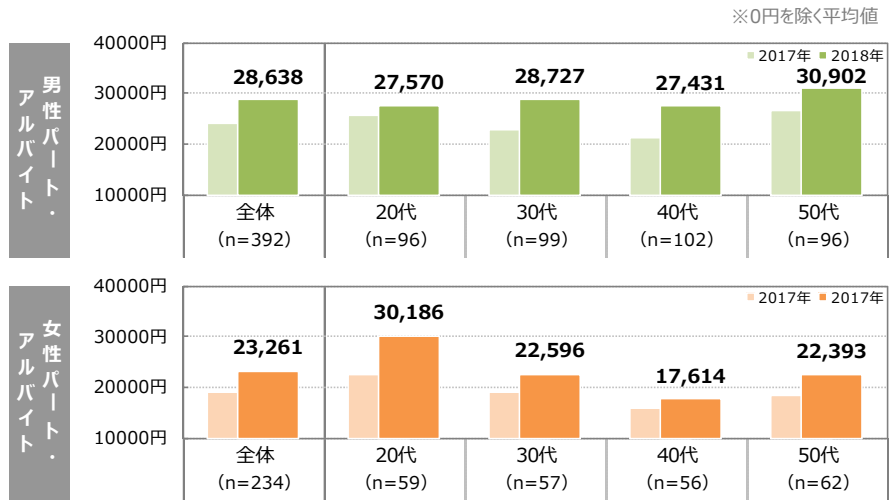


※n=30未満は参考値として掲載

【8】パート・アルバイトの基本データ

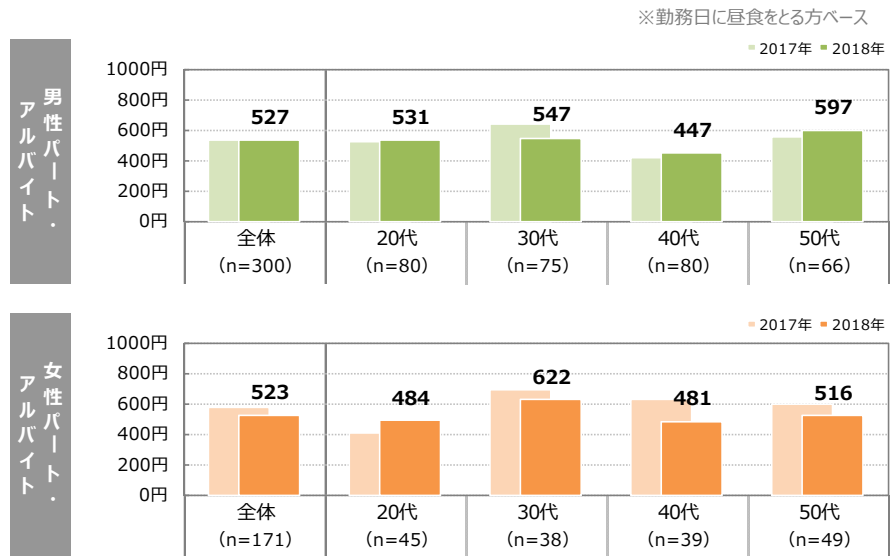
■ お小遣い

1カ月の平均お小遣い額



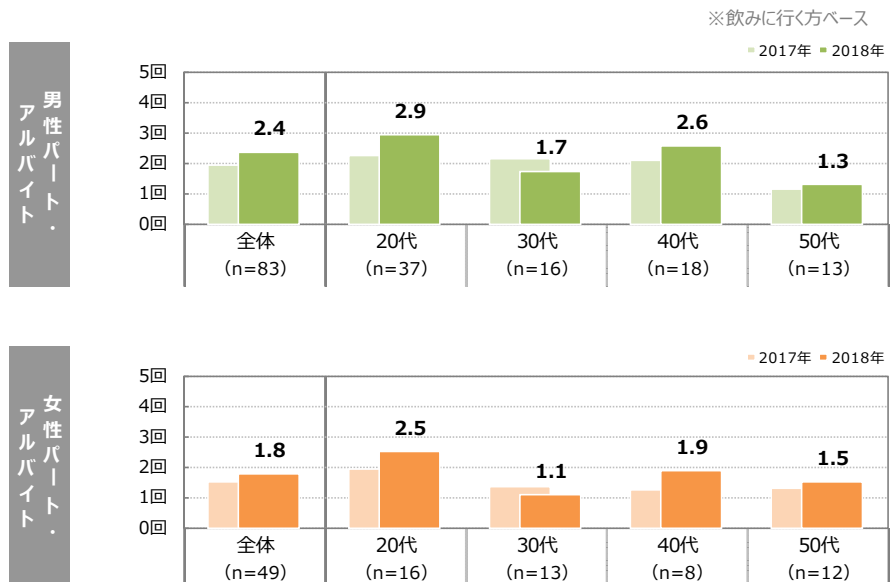
■ 昼食事情

1日の平均昼食代



■ 飲み事情

1カ月の平均飲み回数

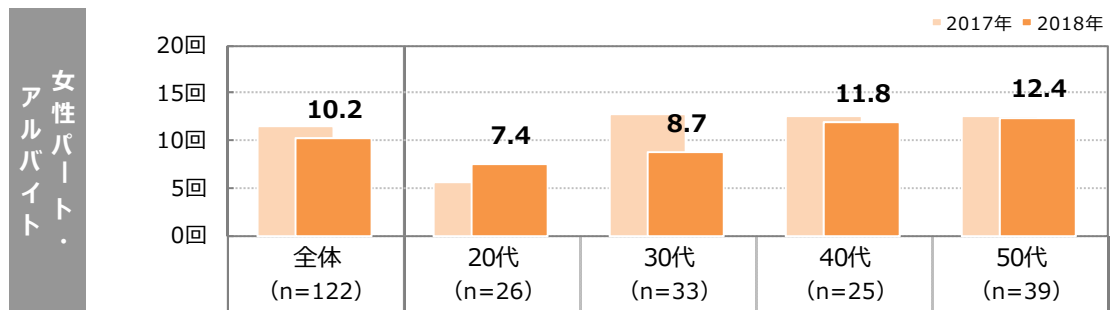
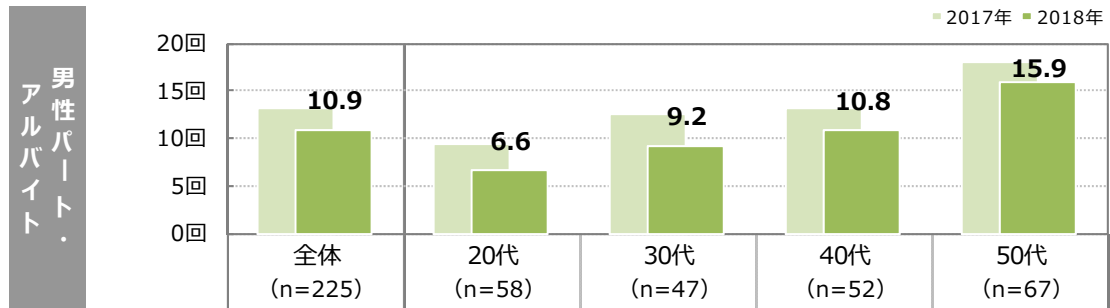


※n=30未満は参考値として掲載

■ 飲み事情(つづき)

1カ月の家飲み回数

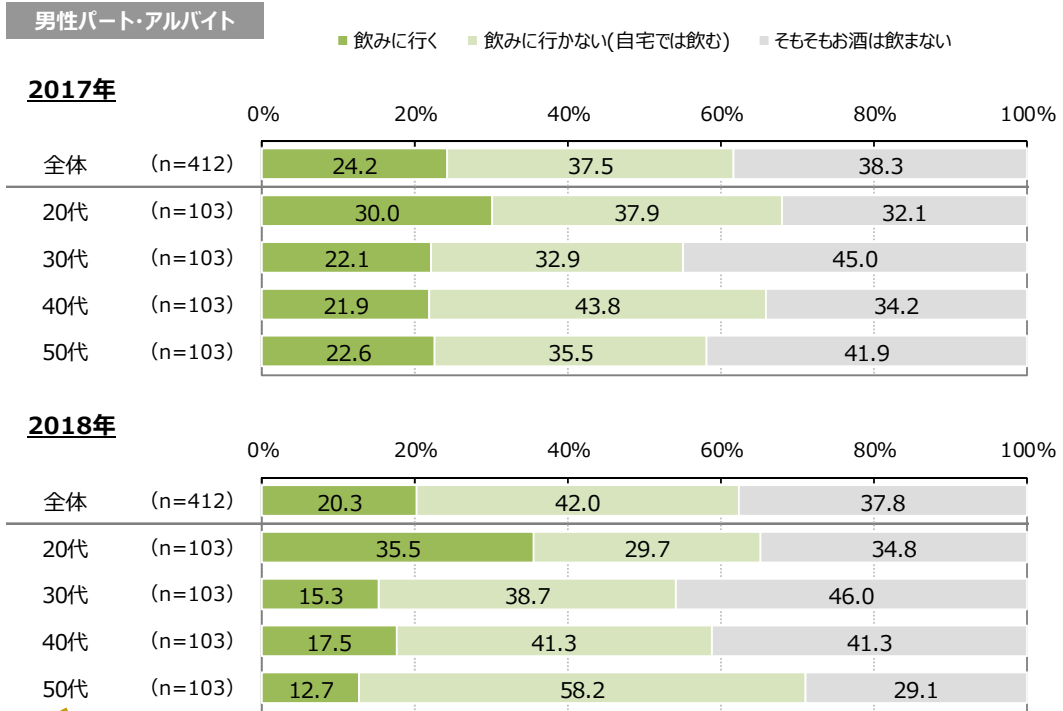
※自宅飲む方ベース



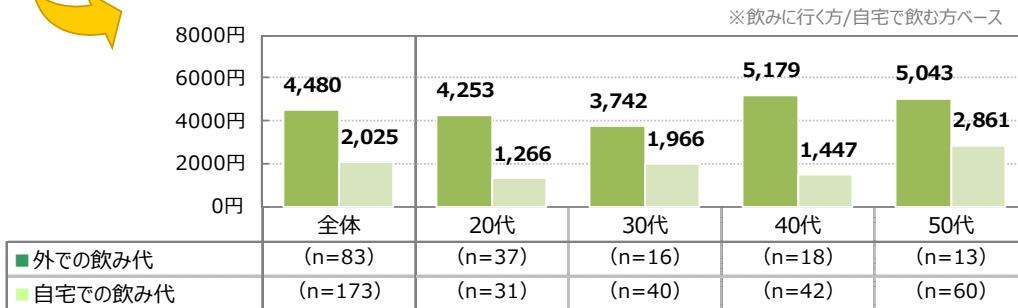
※n=30未満は参考値として掲載

■ 飲み事情(つづき)

飲酒状況と1回の平均飲み代



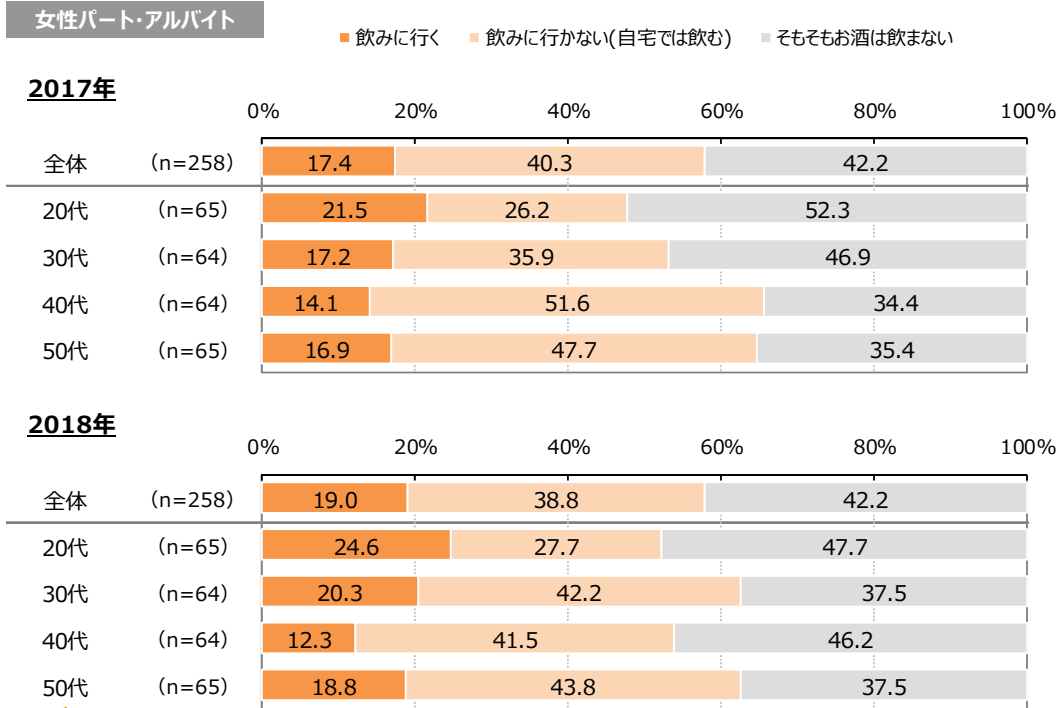
1回の平均飲み代は・・・?



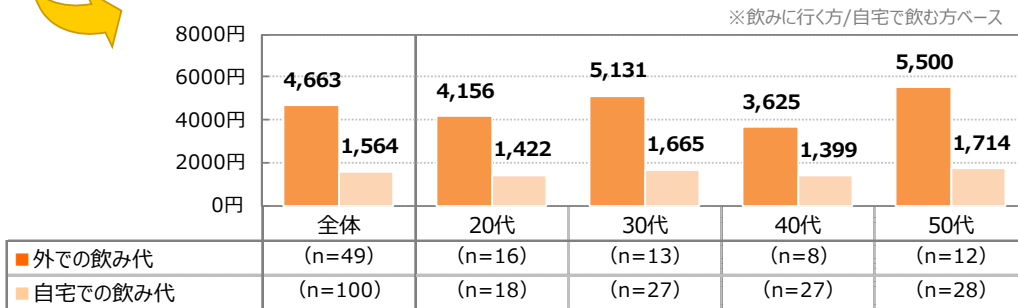
※n=30未満は参考値として掲載

■ 飲み事情(つづき)

飲酒状況と1回の平均飲み代



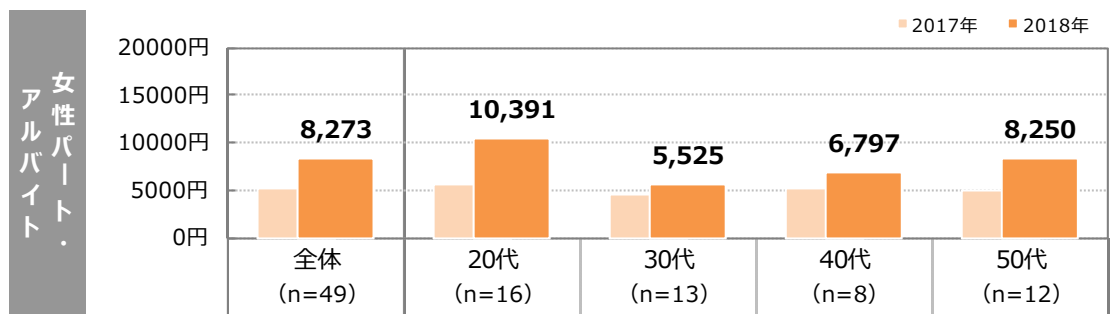
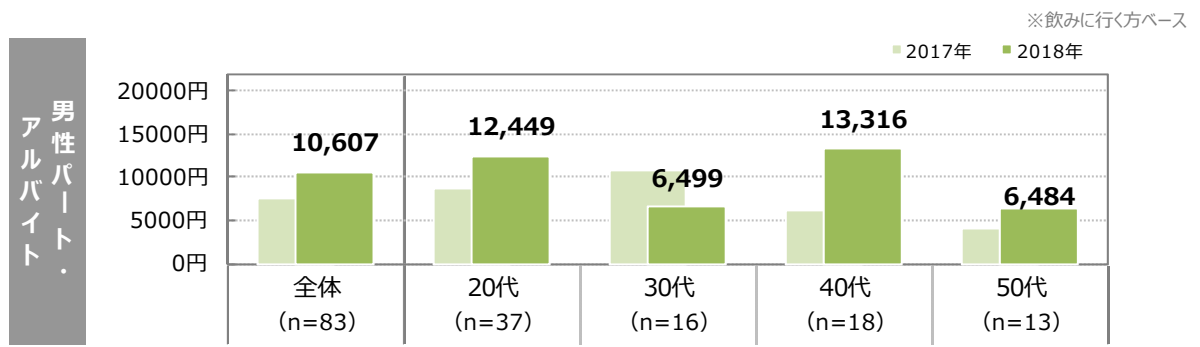
1回の平均飲み代は・・・？



※n=30未満は参考値として掲載

■ 飲み事情(つづき)

1カ月の平均飲み代



※n=30未満は参考値として掲載